

平成22年度の医療安全管理の取組について

平成23年7月7日

公立大学法人横浜市立大学
附属病院
附属市民総合医療センター

目 次

■ 医療事故公表判定基準等	1
■ 一括公表事例	4
I インシデント報告の状況	5
II 入院患者アンケート調査結果	7
III 主な改善検討事例	9

(参考) 資料中での病院名の正式名称は次のとおりです。

附属病院 : 横浜市立大学附属病院

センター病院 : 横浜市立大学附属市民総合医療センター

医療事故公表基準

医療事故の公表について

平成13年 2月16日 制定

平成21年 6月11日 改正

横浜市立大学附属病院及び同市民総合医療センター（以下「附属2病院」といいます。）は、平成11年1月の患者取り違え事故をはじめ、薬剤ラベル貼り付けミスなど、これまでに引き起こした医療事故の反省の上に立って、病院を挙げて医療安全管理の徹底に努めてまいりました。

医療の安全管理を進め、患者さんの安全を確保するとともに、医療事故の発生などの情報を公表することによって、病院運営の透明性を高めることが、医療の信頼を回復するために重要であります。

そこで、横浜市立大学では、附属2病院がどのような場合に医療事故の情報を公表するかを検討するため、平成12年8月7日に市立大学病院改革委員会のもとに医療事故公表基準作成特別委員会を設置しました。同特別委員会は、これまでに6回の審議のほか、市民、市議員、医療関係者、法律専門家、評論家など多くの有識者・専門家の方々からのご意見を伺いながら検討を進め、附属2病院における医療事故の公表についての考え方をとりまとめました。

また、平成21年度からは、個人情報保護の観点から公表にあたっては同意書による確認を行うこととしました。

1 医療事故の公表の意義

医療事故を公表することには、次のような意義があるものと考えます。

- (1) 平成11年1月に起こした患者取り違え事故を契機に、医療事故が大きな社会問題となっているが、当事者として、医療における安全管理を徹底していくために自発的に医療事故を公表していく責務がある。
- (2) 医療事故を公表し適切な対応をとることは、附属2病院の社会的な責任であるとともに、病院運営の透明性を高めることにより、市民からの信頼回復が図られる。
- (3) 医療事故を公表することは、他の病院の医療安全管理にとっても重要な情報提供になる。

2 用語の定義

本報告において使用する用語の定義は、次のとおりです。

(1) 医療事故

患者さんが本来持っていた疾病や体質などの基礎的条件によるものではなく、医療においてその目的に反して生じた有害な事象をさす。医療事故には、医療内容に問題があつて起きたもの（過失による医療事故）と医療内容に問題がないにもかかわらず起きたもの（過失のない医療事故）とがある。

(2) インシデント事例

医療従事者が医療を行ううえで、“ヒヤリ”としたり、“ハツ”とした経験を有する事例で、医療事故には至らなかった場合をさす。

3 医療事故の公表基準

附属2病院は、今後、次のいずれかに該当する医療事故が発生した場合は、患者さんと御家族の同意のもとに、これを速やかに公表します。公表にあたっては、原則として、4の「医療事故公表判定委員会」の意見を聞くものとします。

- (1) 過失による医療事故で、それが死因となった場合、もしくは「生命の危険等、深刻な病状悪化をもたらす」、「治療しても治癒しない」、「治癒するがかなりの負担を強いる」など、患者さんに相当の有害な結果を生じた場合。
- (2) 過失による医療事故で、有害な事象の程度が軽微であっても、病院の医療安全管理上重大であると判断される場合。
- (3) 患者さんに相当の有害な結果を生じた医療事故で、過失によることが明らかでなくとも、公表すべきと判断される場合。

上記以外の過失による医療事故は、包括的な形で一括して公表します。

なお、インシデント事例は原則として公表しません。

4 医療事故の公表の判断・判定について

医療事故の公表の判断・判定に関して、病院長の諮問機関として、外部の有識者、他の医療機関等の医師、横浜市立大学教職員などにより構成する「医療事故公表判定委員会」を設置します。

当委員会は、病院長の諮問により、以下の項目を審議します。

- (1) 速やかに公表すべき医療事故であるか否か、について。
- (2) 医療事故に関して患者さんと御家族に対する説明が十分になされたか、また公表に関する同意が得られたかの状況の確認、及び公表の範囲について。
- (3) 患者さんのプライバシー・人権への配慮と、社会に対する説明責任との比較考量について。
- (4) その他、医療事故公表基準の運用に当たって重要な事項について。

病院長は、審議結果を受け、公表について意思決定します。ただし、速やかに公表すべきと判断される場合で委員会を開催するいとまがない場合は、事後に報告するものとします。

5 公表及び公表内容についての患者さん及び御家族の同意について

医療事故を報道機関等へ公表する際には、個人情報保護の観点から別紙「報道機関等への公表について」による確認を行います。

医療事故公表判定委員会にかかる設置要綱等

公立大学法人横浜市立大学附属病院及び附属市民総合医療センターにかかる 医療事故公表判定委員会設置要綱

平成 17 年 4 月 1 日 制定

(目的及び設置)

第 1 条 公立大学法人横浜市立大学附属病院及び附属市民総合医療センター（以下「附属 2 病院」という。）における医療安全管理を推進するとともに、病院運営の透明性を高め、医療事故についての社会的な責任を果たすため、市立大学に医療事故公表判定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事項)

第 2 条 委員会は、病院長の諮問により次の項目を審議し、意見を述べるものとする。

- (1) 諮問された案件が、速やかに公表すべき医療事故であるか否かについて
- (2) 諮問された案件に関して、患者・家族に対する説明が十分になされたか、また公表に関する同意が得られたかの状況の確認、及び公表の範囲について
- (3) 諮問された案件にかかる患者のプライバシー・人権への配慮と、社会に対する説明責任との比較考量について
- (4) 医療事故公表基準の運用に当って重要な事項について
- (5) 医療安全管理の取組、インシデント報告システムの運用等について

(組織及び任期)

第 3 条 委員会は、理事長が委嘱する次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 医療安全管理に関する学識者・専門家
 - (2) 他の医療機関等の医師
 - (3) その他理事長が指名した者
- 2 前項の委員の任期は、委嘱の日から 2 年間とし、再任を妨げないものとする。
- 3 委員会に委員長を置き、委員長は委員の互選により定める。
- 4 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。
- 5 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、会議の議長となる。

(秘密の保持)

第 4 条 委員会の委員として知り得た事項に関しては、正当な理由なく他に漏らしてはならない。

(庶務)

第 5 条 委員会の庶務は、医学・病院統括部医学・病院企画課、医学・病院統括部総務課及び附属市民総合医療センター管理部総務課において処理する。

(その他)

第 6 条 委員会の運営その他必要な事項に関しては、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

医療事故公表判定委員会 委員名簿（平成 23 年 6 月現在）（敬称略：五十音順）

氏 名	現 職 等
あまかわ たかのり 天 川 孝 則	横浜市救急医療センター センター長
あまの みきこ 天 野 三 紀 子	(社)神奈川県看護協会 常務理事
いまい みつお 今 井 三 男	(社)横浜市医師会 会長
くりやま ひろし 栗 山 博 史	大さん橋通り法律事務所 弁護士
しいの とくこ 椎 野 恵 子	病院ボランティアグループ ランパスの会 代表
たぐち よしお 田 口 芳 雄	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 病院長
ふじもと やすつぐ 藤 本 康 嗣	(社)神奈川県病院薬剤師会 副会長
ほんだ こういち 本 田 耕 一	関東学院大学 法学部長

一括公表事例

附属市民総合医療センター

患者（70代、男性）は、平成21年4月に、右下肢の血流改善のため、右膝下の血管をバルーンにより拡張する治療を行った。右大腿動脈からバルーンカテーテルを挿入し、治療を始めたが膨らまなかったため、体外に取り出し再度試みたところ拡張した。

改めて新しいバルーンカテーテルを挿入し、膝下の血管をバルーンで拡張し、治療を終了した。終了後、血管造影で画像による治療効果の確認を行ったが、異常を認めなかった。

当院での治療1年2か月後の平成22年6月に、他院で右下肢の血流を良くするためのバルーンカテーテル治療を行う際に、膝上部の血管内にある異物が確認され、バルーンカテーテルのバルーン部分保護カバーチューブ（約7cm）と思われるものを回収した。

1

当院で使用しているバルーンカテーテル製造元に、回収したバルーン部分の保護カバー様チューブの鑑定を依頼したところ、同社のものと判明し、当院で治療の際に遺残したものであることが判明した。

遺残した理由は、治療時にバルーンの保護カバーが無いことを確認したものの、十分でなく、血管内にカバーが付いたまま挿入され、血管内で膨らまなかったため、体外に取り出した際に、保護カバーのみが血管内に遺残したためである。

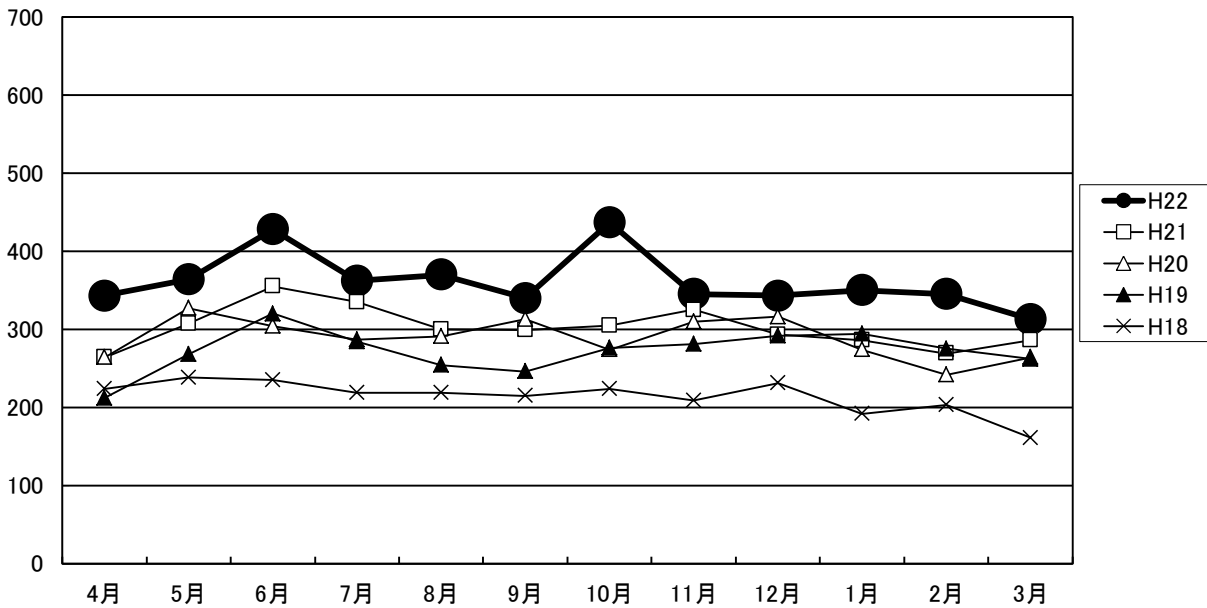
<再発防止策>

- (1) カテーテルによる血管内治療における先端バルーン部分の保護カバーについて、取り忘れがないよう、あらためて当該診療科の部長を通じて施行医に対し、徹底を図った。
- (2) バルーン保護カバーは透明で感触的にも判別しにくいいため、メーカーにも改善の働きかけを行うとともに、医療機器安全性情報報告書を厚生労働省に提出した。

I インシデント報告の状況（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

1 附属病院

(1) インシデント報告の月別件数



(2) インシデント報告の職種別内訳と提出率

職種	件数		月平均		構成比		提出率		職員数	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
医師	189	153	15.8	12.8	4.4%	4.2%	6.5%	5.5%	243	235
看護師	3,733	3,186	311.1	265.5	86.0%	88.0%	50.7%	44.0%	614	604
コ・メディカル	400	269	33.3	22.4	9.2%	7.4%	20.2%	13.4%	165	167
事務・その他	18	16	1.5	1.3	0.4%	0.4%	2.6%	2.3%	57	57
合計	4,340	3,624	361.7	302.0	100.0%	100.0%	33.5%	28.4%	1,079	1,063

※ 職員数は22年度の月平均現在員数
 ※ 提出率(%)=(職種ごとの1ヵ月当たりの提出件数)÷(職員数)

(3) インシデント報告の事象別内訳

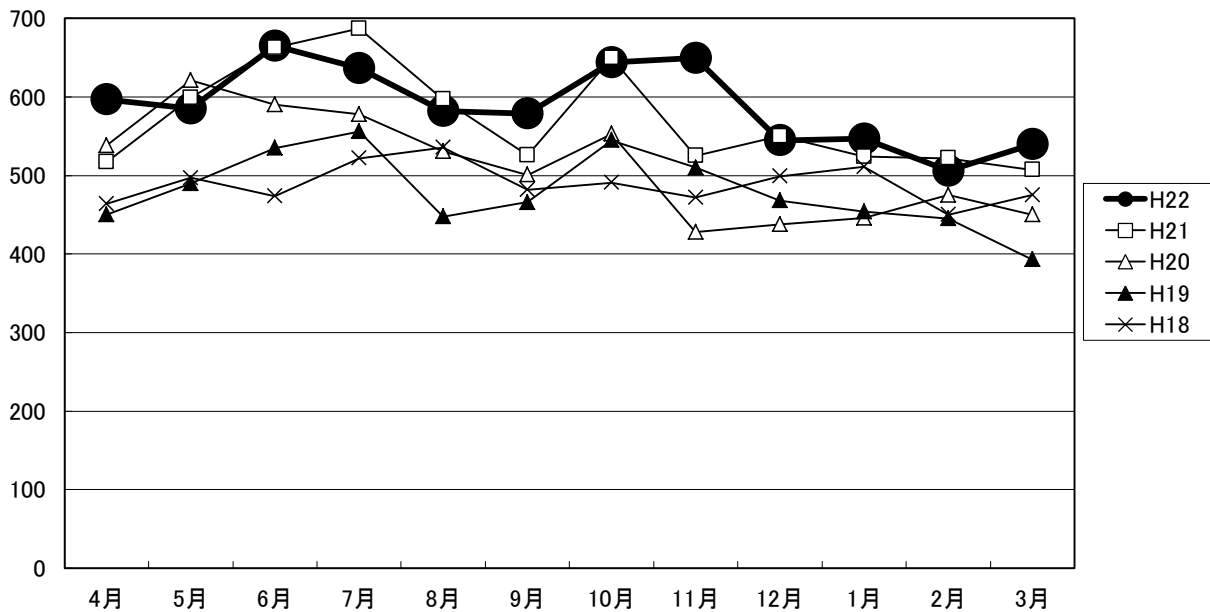
事象	件数		月平均		構成比	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
手術・鎮静・麻酔	92	117	7.7	9.8	2.1%	3.2%
処置・治療・訓練	135	185	11.3	15.4	3.1%	5.1%
輸血	50	46	4.2	3.8	1.2%	1.3%
薬剤	1,544	1,423	128.7	118.6	35.5%	39.4%
ルート・チューブ	1,025	708	85.4	59.0	23.6%	19.5%
検査	501	274	41.8	22.8	11.5%	7.6%
転倒・転落	399	400	33.3	33.3	9.2%	11.0%
ME機器・医療器械	146	103	12.2	8.6	3.4%	2.8%
食事	46	84	3.8	7.0	1.1%	2.3%
その他	402	284	33.5	23.7	9.3%	7.8%
合計	4,340	3,624	361.7	302.0	100.0%	100.0%

(4) インシデント報告の場所別内訳

場所	件数		月平均		構成比	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
病室	2,600	2,303	216.7	191.9	59.8%	63.7%
病棟処置室	34	30	2.8	2.5	0.8%	0.8%
廊下	81	69	6.8	5.8	1.9%	1.9%
トイレ	79	81	6.6	6.8	1.8%	2.2%
浴室	20	9	1.7	0.8	0.5%	0.2%
外来診察室・処置室	213	192	17.8	16.0	4.9%	5.3%
外来待合室	21	9	1.8	0.8	0.5%	0.2%
手術室	209	126	17.4	10.5	4.8%	3.5%
検査室	337	166	28.1	13.8	7.8%	4.6%
訓練室	4	1	0.3	0.1	0.1%	0.0%
薬剤部	128	66	10.7	5.5	2.9%	1.8%
ナースステーション	325	315	27.1	26.3	7.5%	8.7%
その他	289	257	24.1	21.4	6.7%	7.1%
合計	4,340	3,624	361.7	302.0	100.0%	100.0%

2 センター病院

(1) インシデント報告の月別件数



(2) インシデント報告の職種別内訳と提出率

職種	件数		月平均		構成比		提出率		職員数	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
医師	135	175	11.3	14.6	1.9%	2.6%	6.8%	9.1%	167	160
看護師	6,394	6,157	532.8	513.1	90.3%	89.6%	63.3%	62.5%	842	821
コ・メディカル	438	466	36.5	38.8	6.2%	6.8%	20.6%	21.9%	177	177
事務・その他	110	69	9.2	5.8	1.6%	1.0%	17.0%	10.4%	54	56
合計	7,077	6,867	589.8	572.3	100.0%	100.0%	47.6%	47.1%	1,240	1,214

※ 職員数は22年度の月平均現在員数

※ 提出率(%)=(職種ごとの1ヵ月当たりの提出件数)÷(職員数)

(3) インシデント報告の事象別内訳

事象	件数		月平均		構成比	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
手術・鎮静・麻酔	97	100	8.1	8.3	1.4%	1.5%
処置・治療・訓練	310	350	25.8	29.2	4.4%	5.1%
輸血	33	48	2.8	4.0	0.5%	0.7%
薬剤	2,509	2,380	209.1	198.3	35.5%	34.6%
ルート・チューブ	1,322	1,442	110.2	120.2	18.7%	21.0%
検査	555	566	46.3	47.2	7.8%	8.2%
転倒・転落	588	570	49.0	47.5	8.3%	8.3%
ME機器・医療器械	200	211	16.7	17.6	2.8%	3.1%
食事	285	266	23.8	22.2	4.0%	3.9%
その他	1,178	934	98.2	77.8	16.6%	13.6%
合計	7,077	6,867	589.8	572.3	100.0%	100.0%

(4) インシデント報告の場所別内訳

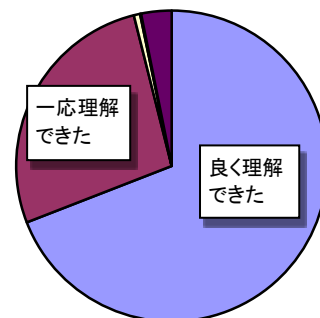
場所	件数		月平均		構成比	
	今年度	昨年度	今年度	昨年度	今年度	昨年度
病室	4,932	4,856	411.0	404.7	69.7%	70.7%
病棟処置室	51	54	4.3	4.5	0.7%	0.8%
廊下	91	102	7.6	8.5	1.3%	1.5%
トイレ	112	87	9.3	7.3	1.6%	1.3%
浴室	28	25	2.3	2.1	0.4%	0.4%
外来診察室・処置室	166	155	13.8	12.9	2.3%	2.3%
外来待合室	14	16	1.2	1.3	0.2%	0.2%
手術室	106	110	8.8	9.2	1.5%	1.6%
検査室	340	365	28.3	30.4	4.8%	5.3%
訓練室	11	15	0.9	1.3	0.2%	0.2%
薬剤部	73	99	6.1	8.3	1.0%	1.4%
ナースステーション	686	607	57.2	50.6	9.7%	8.8%
その他	467	376	38.9	31.3	6.6%	5.5%
合計	7,077	6,867	589.8	572.3	100.0%	100.0%

II 入院患者アンケート調査結果（平成22年4月～平成23年3月）

1 附属病院

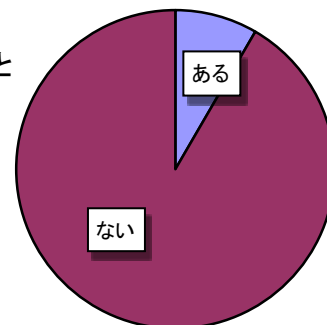
設問1 病状や治療方針の説明はわかり易かったですか

	22年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
良く理解できた	635	69.0%	69.8%
一応理解できた	248	27.0%	26.4%
余り理解できなかった	6	0.7%	1.2%
全く理解出来なかった	1	0.1%	0.0%
その他	29	3.2%	2.6%
合 計	919	100.0%	100.0%



設問2 治療、検査、処置など診療全般について、医療安全管理上問題があったと思われたこと、その他、気づかれたことや不満に思われたこと

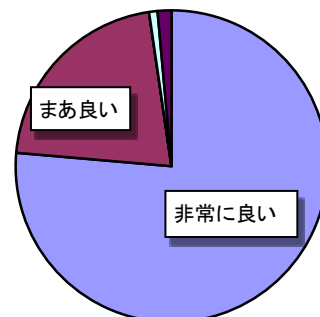
	22年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
ある(※)	77	8.4%	8.3%
ない	842	91.6%	91.7%
合 計	919	100.0%	100.0%



(※) 代表的な事例：医療者間での情報の共有が不十分、検査・処置等の事前の説明が不十分、採血・注射等の手技の未熟

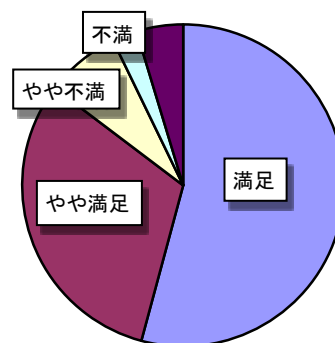
設問3 医師、看護師、薬剤師、技師などの対応について、どう感じたか

	22年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
非常に良い	695	76.4%	77.3%
まあ良い	194	21.3%	20.6%
やや悪い	0	0.0%	0.6%
非常に悪い	8	0.9%	0.5%
分からない	13	1.4%	1.0%
合 計	910	100.0%	100.0%



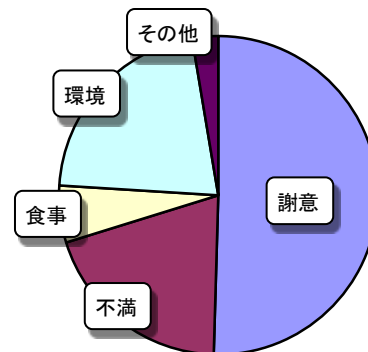
設問4 病室、トイレ、ディールーム、食事など療養環境について

	22年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
満足	498	54.2%	55.6%
やや満足	286	31.1%	31.4%
やや不満	69	7.5%	8.1%
不満	23	2.5%	2.4%
なんとも言えない	43	4.7%	2.5%
合 計	919	100.0%	100.0%



設問5 その他の意見

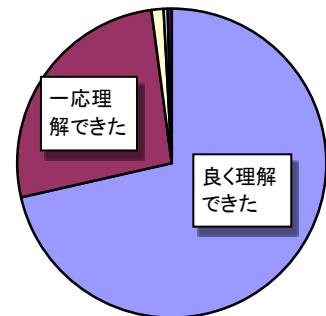
	22年度（4～3月）合計		昨年度 比率
	回答数（件）	比率	
医師、看護師等に対する謝意	498	50.4%	53.8%
医師、看護師等に対する不満	195	19.8%	7.2%
食事に関する要望	57	5.8%	4.1%
環境整備に関する要望	211	21.4%	20.5%
その他	26	2.6%	14.4%
合 計	987	100.0%	100.0%



2 センター病院

設問1 病状や治療方針の説明はわかり易かったですか

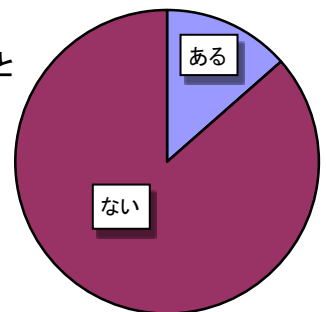
	22年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
良く理解できた	678	71.5%	71.4%
一応理解できた	251	26.4%	27.1%
余り理解できなかった	12	1.3%	1.4%
全く理解出来なかった	4	0.4%	0.1%
その他	4	0.4%	0.0%
合計	949	100.0%	100.0%



設問2 治療、検査、処置など診療全般について、医療安全管理上問題があったと思われること、その他、気づかれたことや不満に思われたこと

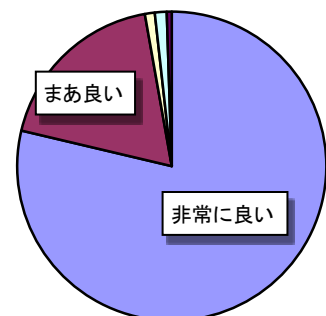
	22年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
ある(※)	121	13.5%	11.2%
ない	774	86.5%	88.8%
合計	895	100.0%	100.0%

(※) 代表的な事例：職員の態度や言葉づかい、治療等の説明不足、研修医等への指導について



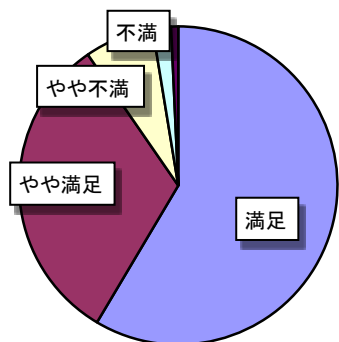
設問3 医師、看護師、薬剤師、技師などの対応について、どう感じたか

	22年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
非常に良い	761	78.8%	78.6%
まあ良い	179	18.5%	19.0%
やや悪い	10	1.0%	1.8%
非常に悪い	12	1.2%	0.3%
分からない	5	0.5%	0.3%
合計	967	100.0%	100.0%



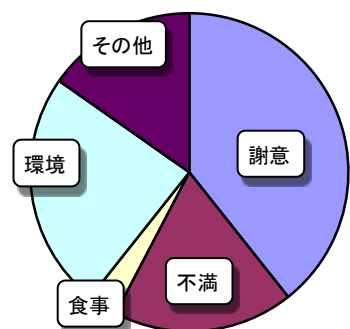
設問4 病室、トイレ、ディルーム、食事など療養環境について

	22年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
満足	566	58.5%	63.2%
やや満足	308	31.9%	28.5%
やや不満	68	7.0%	6.4%
不満	18	1.9%	1.7%
なんとも言えない	7	0.7%	0.2%
合計	967	100.0%	100.0%



設問5 その他の意見

	22年度(4~3月) 合計		昨年度 比率
	回答数(件)	比率	
医師、看護師等に対する謝意	549	39.3%	46.4%
医師、看護師等に対する不満	256	18.3%	18.0%
食事に関する要望	42	3.0%	2.8%
環境整備に関する要望	336	24.1%	17.0%
その他	213	15.3%	15.8%
合計	1,396	100.0%	100.0%



Ⅲ 主な改善検討事例

1 附属病院

	検討項目	改善検討内容
1	「医療安全管理指針（共通編）第10版」発行	医療安全管理指針（共通編）第10版を各部門に配布し、リスクマネージャーを通じて職員に各自で熟読するように周知した。また、電子カルテ用のパソコン上にも掲載し、必要な時には誰でも閲覧できるようにした。 主な改訂点は次のとおりである。 ①安全管理に関する基本指針、②臨床倫理に関する方針、③附属病院安全管理対策委員会要綱、④手術時における安全対策、⑤輸血に関する事項等
2	「ポケット版 医療安全管理指針2010」発行	第10版医療安全管理指針（共通編）のエッセンスをまとめた「ポケット版医療安全管理指針2010」を全職員へ配布した。なお、携帯して活用するようにリスクマネージャーを通じて周知した。 主な改訂点は、次のとおりである。 ①医療安全管理に関する基本指針、②感染管理に関する基本指針、③インシデント等発生時の対応方法、④アレルギー情報の入力方法等について、実務的な内容を掲載し充実を図った。さらに、サイズ規格も大幅に改訂し携帯しやすくした。
3	インシデントレポートシステムの更新とアイコンの変更	日本医療機能評価機構への報告を容易に行えるようにした。さらに使用者が利用しやすいように専用アイコンを「救急箱のアイコン」に変更し、医療安全の情報を取り出しやすく、活用しやすいものにした。
4	専任の事務職員の配置	感染制御部と安全管理室の事務業務を専任として半日単位で行っている。主に研修参加者の把握や研修、委員会等の資料準備を行っている。
5	肺血栓塞栓症マニュアルの改訂	静脈血栓症が強く疑われる症例において、フローの変更を行った。大きな変更点として、「Dダイマー>1」のケースで、これまでは「下肢エコー+造影CT」となっていたが、「下肢エコー（静脈造影）にて血栓が確認された例のみ造影CTを実施」に変更した。
6	未分画ヘパリン皮下注射剤の導入	周術期肺血栓塞栓症予防において、ヘパリンの皮下注射をする際、これまで5000単位/5mlの製剤しかなかったが、5000単位/0.2mlの皮下注プレフィルドシリンジ製剤を採用し、患者の苦痛軽減に繋げている。
7	手術・麻酔・処置の実施同意書の改訂	子供の同意書について、全ての親権者（多くの場合両親2名）からの同意を取得すべきであることから、2名の記入ができるように同意書の改訂を行った。
8	電子カルテ画面のアレルギー情報の表示改修	体内金属、造影剤禁忌情報について、アイコン表示可能としアレルギー情報の確認の充実を図った。
9	両病院公表事例等の情報共有	年に一回行っている一括公表事例について、両病院の安全管理対策委員会で双方の安全管理担当が説明を行い、情報の共有を行った。
10	全患者への食札導入	従来、制限食等の特別食のみ付けていた食札を、全患者へ導入し誤配善の防止を図っている。
11	患者確認画面の導入	電子カルテ上で患者カルテを開く際に、「患者確認画面」が表示されるようにした。患者確認画面は、氏名が大きく表示され、患者確認だけでなく、アレルギー情報等の確認や必要事項の入力もしやすくなり起動性が高くなった。
12	手術終刀時のタイムアウトの導入	手術中に使用したガーゼ、器械類の体内挿入物（ドレーン）等の体内遺残防止策として、手術終刀時のタイムアウトを導入し、多くの医療者で確認を行うことを院内のルールとして運用を開始した。

	検討項目	改善検討内容
13	「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂	新設病棟（HCU）にともない、麻薬の定数配置部門を追加した。また、注射薬の血管外漏出に関する内容を追加掲載した。
14	抗がん剤内服薬のレジメン登録	他院でのメソトレキセート経口薬での事故を鑑みて、抗悪性腫瘍薬メソトレキセート錠(2.5mg)をレジメン登録し、レジメンオーダーのみでの入力とした。
15	インスリンスライディングスケールの標準化	プロジェクトを結成し、インスリンスライディングスケールの投与薬・用量などを標準化して、指示のひな型を電子カルテシステムに登録した。
16	周術期肺血栓塞栓対策予防マニュアルの改訂	過剰な検査の増大を防ぐため、術前スクリーニングにてDダイマー測定を行う対象疾患の見直しをした。
17	医療情報システム障害時の初動対応フローの策定	災害などに伴う停電や、システムトラブルによる医療情報システム障害に備えて、システム障害時の初動連絡および院内放送についてのフロー図を作成した。
18	業務放送の放送範囲のルールの見直し	適切な部署に適切に情報が伝達されるよう、業務放送をする際の放送範囲について現状のルールを見直した。
19	放射線部・内視鏡センターでの施行前タイムアウトの実施	手術室で行われている術前タイムアウト同様、放射線部での血管カテーテルを用いた処置等や、内視鏡センターでの内視鏡による処置・治療の前に、タイムアウトを実施することとした。
20	救急カートの運用の見直し	救急カートに搭載する薬剤や物品の見直しを行い、管理のルールを改定した。
21	超緊急手術の患者確認方法の変更	超緊急手術時において通常の患者確認方法を行うには不都合を生じる場合もあるため、手術までの時間を短縮できるよう、安全の確保できる範囲内で、患者確認方法を簡略化した。
22	内視鏡処置時の抗凝固薬・抗血小板薬の休薬・再開指針の策定	内視鏡処置時の出血リスク軽減のため抗凝固薬・抗血小板薬の休薬・再開に関して、標準化し指針を策定した。
23	輸血療法マニュアルの改訂	緊急手術等での血液型不明時の対応を明確にするために、血液型不明患者の輸血に関する記載をマニュアルに追記した。

2 センター病院

	検討項目	改善検討内容
1	医薬品安全使用に関する業務手順書の改訂	薬剤管理指導料医薬品安全性情報等管理体制加算算定に伴い、医薬品安全使用に関する業務手順書に、周知や情報提供の方法、副作用の情報収集等を追補した。
2	エコーガイド下での中心静脈穿刺講習実施	中心静脈穿刺講習会で、エコーガイドを使用し、視覚的に理解しやすい実技講習を開始した。
3	横浜市立大学市民総合医療センター安全管理対策委員会要綱の一部改訂	人工呼吸管理を行うレスピレーションサポートチームの診療報酬算定に伴い、具体的な内容を明記した。 また、安全管理対策委員会やリスクマネージャー会議に、委員以外のものを出席させることができるようにして、要綱上 代理出席や説明補助を可能に整備した。
4	患者さんを交えた医療安全講演会の開催	患者さんから医療安全を学ぶ主旨で、患者さんを交えた医療安全講演会を、両病院通じて初めて開催した。
5	抗がん剤血管漏出時の対応セットの作成	外来化学療法室において、抗がん剤の血管漏出時に使用するハイドロコートン等の必要な薬剤・診療材料のセットを作成した。
6	肺血栓塞栓症対策の充実に向けたフットポンプの拡充	周術期肺血栓・塞栓症対策マニュアル改訂による間欠的空気圧迫法の適応拡大に対し、フットポンプを追加購入し充実を図った。
7	中心静脈穿刺エコー導入	診療科で中心静脈穿刺をより安全に行うために、エコーを追加導入した。
8	公表事例の共有	年に一回行っている一括公表事例について、両病院の安全管理対策委員会で双方の安全管理担当が説明を行い、情報の共有を行った。
9	医薬品医療機器安全管理補助者の選任	医薬品安全管理責任者を補佐する補助者を新たに選任することを、医薬品及び医療機器安全管理要領に定めた。
10	医療安全管理室ホームページの追補	病院ホームページ医療安全管理室のページに、平成21年度の医療安全の取り組み、および中心静脈穿刺登録医制度について追補を行った。
11	中心静脈穿刺マニュアルの改訂	穿刺記録の提出について、提出除外処置の一部追補、穿刺後の観察記録について医師または看護師が行うことを加えた。

	検討項目	改善検討内容
12	ドクターコールに備えたストレッチャー配備の充実	患者さん等の急変時ドクターコールに備えて、病棟のない5階、6階にストレッチャーを配備した。
13	抗菌薬投与時の重篤なアレルギー反応に対する基本的な考え方の整備	2004年に厚生労働省から抗菌薬初回投与時の関連通知が出され、これに基づき医療安全管理室から通知として周知を行ってきた。今回、抗菌薬投与時の重篤なアレルギー反応に対する基本的な考え方として、皮内テストに代わる対応、アナフィラキシーの予兆となる症状と観察項目、アナフィラキシーショック発生時の初期対応をまとめた。
14	低カリウム血症の補正方法ガイドラインの一部改訂	HCUにおいて、観血的動脈圧モニター下でカリウム製剤の原液投与を行う場合があるため、一部改訂を行った。
15	ハイリスク手術予定報告書の一部改訂	手術部、医療安全管理室、管理部門が、リスクの高い手術について把握するための報告範囲を、患者の医学的リスクに加えて、当院で行われることが少ない手術や、患者の受け入れ状態等 幅広く報告できるようにした。
16	「在宅での使用後の針についてのご案内」の作成	医療廃棄物対策や針刺し事故防止の観点から、在宅で使用した針の扱いについて、患者さん向けにご案内用紙を作成した。
17	医療安全教育の充実	より多くの職員に医療安全啓発を行うため、「医療安全講演会の内容のビデオ」や、「医療安全の啓発ビデオ」を、24時間いつでも視聴できるように、院内のネットワーク環境から提供した。
18	医療安全啓発独自ビデオの作成	医療安全の周知事項は、リスクマネージャー会議などを通じて伝達を行っているが、特に全職員に周知を図りたい内容について、10分間という短時間の教育ビデオを作成し、院内ネットワークで提供した。作成した内容は、「ラテックスアレルギーの基礎知識」、「センター病院の医療安全の基本」の2種である。
19	医療安全講演会のビデオ講演会の開催	毎年医療安全講演会を行っているが、より多くの職員が、聴講できるような工夫が課題である。そこで、前記 院内ネットワーク環境からのビデオ提供に加えて、ビデオ講演会を再度開催して、聴講機会の充実に努めた。
20	「内服薬の包装ごと誤飲防止」市民向け啓発	内服薬の包装をはずさないで、そのまま誤飲してしまう事例が全国的に報告されていることから、外来待合い室での映像による啓発や、ホームページを通じて啓発を行った。
21	医療安全管理指針改訂版の配布	第9改正医療安全管理指針を作成、配布した。 主な改訂は、抗菌薬投与時の重篤なアレルギー反応に対する基本的な考え方、RSTチームの具体内容の明記等の安全管理対策委員会要綱の改訂部分。
22	周術期肺塞栓症対策マニュアルの改訂	皮下注に用いるヘパリン5000単位について、従来は5mL投与する製剤であったが、プレフィルドシリンジタイプの0.2mL投与で可能な製剤に変更を行ったため、マニュアルを改訂した。
23	注射用情報提供用紙の改訂	急速静注が禁止されている注射薬剤等へ、院内で添付している情報提供用紙について、これまでは薬剤名称が目立っていたが、注意喚起内容を目立たせるレイアウトや情報内容の充実等を行った。

	検討項目	改善検討内容
24	医療安全ホームページの充実	医療安全管理室のホームページに、中心静脈カテーテル穿刺の登録医制度や前記「内服薬の誤飲防止」について掲載した。
25	麻薬の安全管理啓発ポスターの全部署掲示による啓発	職員の健康管理を徹底するために、麻薬の安全管理啓発ポスターを全部署に掲示し啓発した。
26	注射用麻薬を作り置きしないことのルール化	麻薬の適正管理のため、麻薬を作りおきしないことがルール化された。
27	N I C Uモニターアラーム音量の適切化	N I C Uは乳児が入院加療していることから、発達に影響しないモニターアラーム音量が求められている。このため、国際的な基準と照らしあわせて、安全管理室、臨床工学部門、N I C U看護部門・診療科と検討検証のうえ、適切な音量設定とすることになった。
28	医療安全管理指針の改訂	安全管理室の機能・体制・主な業務、患者相談について、具体的な記載の追補を行った。
29	術後ガーゼ遺残防止確認の充実	術後ガーゼ遺残を防ぐために手術室でのX線画像確認時、ガーゼの視認性をより高める条件を設定し、確認の質的向上を図った。
30	肺血栓・塞栓症予防対策プロジェクトの設置	周術期に限らず、精神科領域や脳卒中などの内科領域、及び外傷等も含めた総合的な「肺血栓塞栓症予防対策マニュアル」策定に向けて職種横断的なプロジェクトを編成した。
31	脳死下臓器提供訓練の実施	平成22年7月の臓器移植法の改正に伴い改定された「脳死下臓器提供に関するマニュアル」をもとに、手順等の確認・検証目的で机上シミュレーションを実施した。



参 考 資 料

(平成23年7月7日)

1 医療安全管理体制	1
2 安全管理対策委員会開催状況	3
3 リスクマネジャー会議の活動状況	8
4 安全管理研修の開催状況	12
5 入院患者さんアンケート	24

1 医療安全管理体制

医療安全管理の組織体制

○統括安全管理者

副病院長の内の1名を任命し、病院における医療安全管理の推進、情報の収集・分析・評価等、医療安全管理活動の推進責任者として位置付けています。

○安全管理指導者

統括安全管理者を補佐して、病院の医療安全管理全般にわたる指導、改善指示、職員研修の企画等を行う職として「安全管理指導者」を置き、日本で初の「医療安全管理学」教授（附属病院）、准教授（センター病院）をあてております。安全管理指導者は、医療安全管理学の学生教育も行っています。

○安全管理者（リスクマネジャー）

医療安全管理に関する職場点検、業務改善、教育・指導、事故発生時の対応及び報告等を行うため、各病院の「医療安全管理室」に安全管理担当課長または担当係長を2名（看護師、薬剤師）配置しているほか、診療部門・看護部門等の各部門に70余名の安全管理者（リスクマネジャー）を配置しています。

安全管理の推進のための委員会活動

○安全管理対策委員会

統括安全管理者を委員長として、病院の医療安全管理活動を推進する中心として活動しており、インシデント報告の検討、改善策の検討と評価、医療安全管理の情報収集等を行っています。

○リスクマネジャー会議

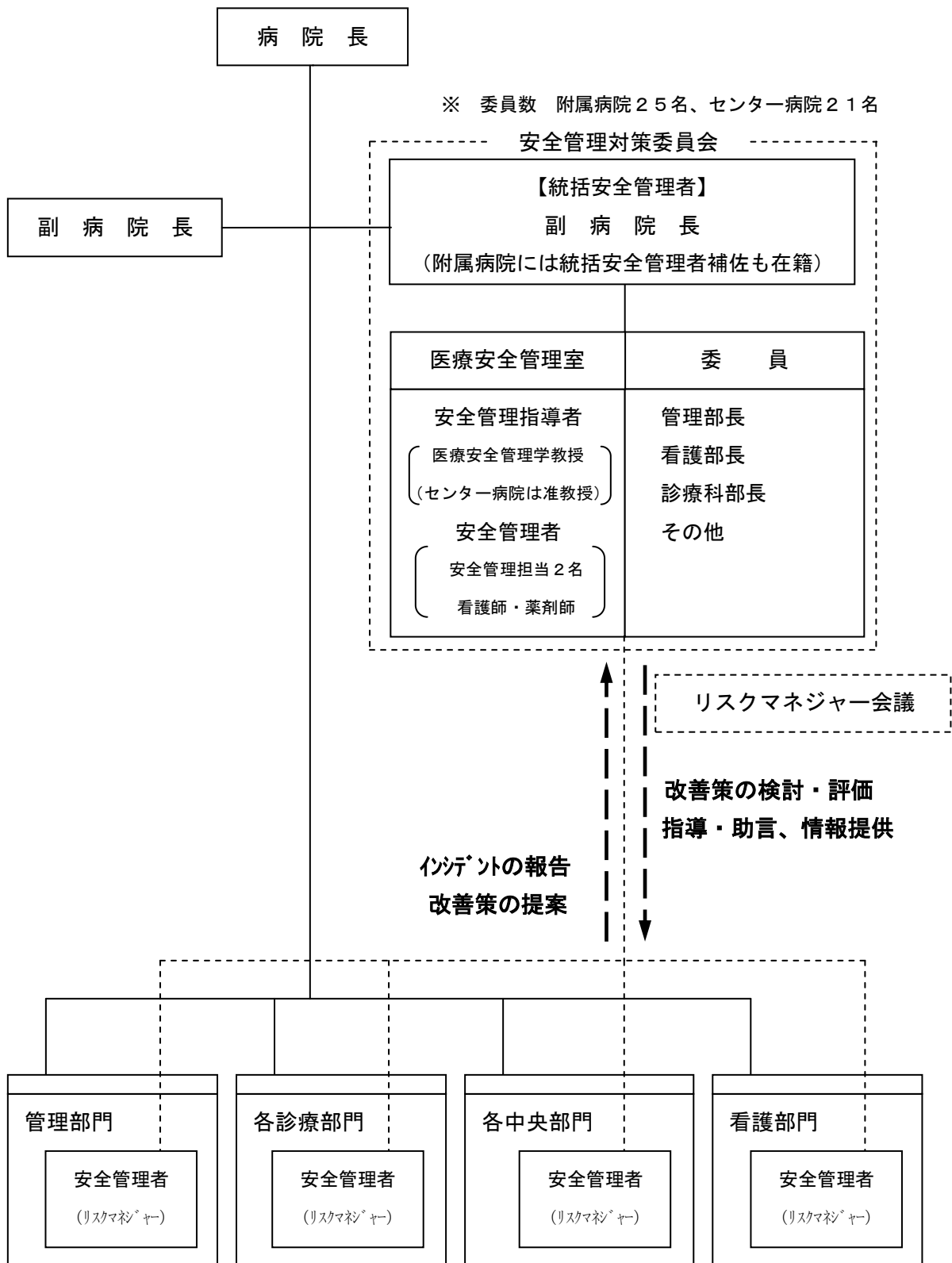
インシデント事例についての検討、各部署の取組の紹介、改善策の周知、「事故予防マニュアル」の作成、医療安全管理の情報提供等を行い、職員の安全管理意識を高める場としています。

インシデント報告システム

病院の日常業務の中で、医療事故につながりかねない「ヒヤリ、ハット」したできごと（インシデント）を医療従事者が自主的に報告し、その情報をもとに、事故を未然に防ぐための改善策を確立するシステムです。

報告は、各部門のリスクマネジャーから医療安全管理室に報告され、安全管理対策委員会とリスクマネジャー会議を通じて改善策の検討と周知などを行っています。

市立大学附属2病院 安全管理体制図



※ 各部門のリスクマネジャー 附属病院64名、センター病院78名
(委員等の人数は平成23年4月1日現在)

2 安全管理対策委員会の活動状況

附属病院

開催日		主な議題
第1回	4月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度 安全管理対策委員会 委員について 2 平成22年度 安全管理対策委員会 日程について 3 医療関連ニュース（3月26日～3月31日） 4 平成22年度の医療安全の取り組み、リスクマネジャーワーキンググループのテーマについて 5 事故調査委員会へのアドバイザー医師の任命について 6 新採用職員対象 医療安全研修開催結果について 7 医療安全管理指針（第10版）の配布について
第2回	4月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（4月1日～4月14日） 2 新採用職員対象 医療安全（ビデオ）研修開催結果について 3 角膜移植管理運用マニュアルについて 4 インシデント報告システムの更新作業の進捗状況について 5 安全管理・感染管理担当の事務職員の配置について 6 第1回 医療安全講演会の案内 7 事例検討
第3回	5月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（4月15日～4月21日） 2 異動者・転入者対象の安全管理研修（ビデオ）について 3 肺血栓塞栓症マニュアルの改訂について 4 事例検討
第4回	6月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（4月22日～6月2日） 2 医療事故公表判定委員会報告について 3 関東信越管内特定機能病院連絡会議報告について 4 未分化ヘパリン皮下注製剤の導入について 5 中心静脈カテーテル運用マニュアルの改訂について 6 個人用携帯情報端末（PDA）使用による確認の実態報告 7 異動者・転入者対象の安全管理研修（ビデオ）について 8 未成年者に対する同意書のとり方について 9 事例検討
第5回	6月28日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（6月3日～6月15日） 2 手術・麻酔・処置実施 同意書の改訂について 3 第1回医療安全講演会（ビデオ）について 4 異動・転入者対象安全管理ビデオ研修出席状況について 5 最近の医療安全に関する情報提供 6 事例検討
第6回	7月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（6月18日～6月30日） 2 アレルギー情報入力改訂について 3 手術・麻酔・処置実施 同意書の改訂後の運用について 4 第1回医療安全講演会（ビデオ）追加開催について 5 事例分析ワーキンググループからの報告と提案について 6 事例検討
第7回	7月26日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（7月1日～7月14日） 2 市民総合医療センター病院からの事例報告と改善策について 3 オーダー締め切り時間後の薬剤払い出し状況の実態について 4 電子カルテ上の「アレルギー関連」の入力について 5 未成年者の同意書の基準について 6 信仰上の理由により輸血拒否をする患者さんへの対応について 7 平成22年度 心肺蘇生・AED研修開催について

開催日		主な議題
第8回	9月13日	1 医療関連ニュース（7月15日～8月25日） 2 病院機能評価Ver6の受審について 3 第1回医療安全講演会の実施報告および第2回開催案内 4 放射線部の安全管理の取り組みについて 5 紙配布による情報提供の整理法について 6 救急カートの見直しについて 7 手術終刀時タイムアウトの導入について 8 事例検討
第9回	9月27日	1 医療関連ニュース（8月26日～9月15日） 2 第2回医療安全講演会の実施報告および第3回開催案内 3 新採用・転入者職員の医療安全研修（ビデオ上映）開催について 4 「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂と 実施確認報告書の提出について 5 事例検討
第10回	10月18日	1 医療関連ニュース（9月16日～10月5日） 2 医療監視実施予定について 3 新採用・転入者職員医療安全研修（ビデオ上映）について 4 平成22年度 医療安全講演会について 5 抗悪性腫瘍薬「メソトレキセート錠2.5mg」オーダー方法変更について 6 Cスキャンの不具合と対応について 7 平成22年度 上半期インシデント報告状況 8 病院機能評価自主点検結果と課題について 9 事例検討
第11回	11月8日	1 医療関連ニュース（10月12日～10月20日） 2 医療監視実施について 3 平成22年度 医療安全講演会について 4 同意書等受領時の日付記載について
第12回【臨時】	11月22日	1 麻薬の適正管理について
第13回	12月13日	1 委員の追加について 2 医療関連ニュース（10月28日～12月1日） 3 医療事故公表判定委員会（12月3日実施）報告 4 平成22年度 医療安全週間、開催日時について 5 第4回 医療安全講演会（ビデオ上映会日程）について 6 改善策進捗状況について 7 インスリン使用時のスライディングスケールの基準について 8 事例検討
第14回	1月24日	1 医療関連ニュース（12月2日～1月12日） 2 感染対策状況について 3 第5回 医療安全講演会ビデオ上映会日程および第6回開催について 4 平成22年度 今後の研修予定について 5 医療安全に関する各部門内検討・会議報告状況について 6 インスリンプロジェクト進捗状況について 7 救急カート見直しプロジェクト進捗状況について 8 手術患者移送ルール変更について 9 事例検討

開催日		主な議題
第15回	2月14日	1 医療関連ニュース（1月13日～1月28日） 2 第6回 医療安全講演会ビデオ上映会日程について 3 インスリンプロジェクト進捗状況について 4 救急カート見直しプロジェクト進捗状況について 5 周産期肺血栓塞栓症予防対策マニュアルについて 6 特定生物由来製品請求に関する取扱いについて 7 事例検討
第16回	2月28日	1 医療関連ニュース（2月2日～2月16日） 2 第6回 医療安全講演会ビデオ上映会日程について 3 医療安全管理指針改定について 4 医療情報システム障害と対応について 5 放送設備の概要と業務放送範囲について 6 救急カート見直しプロジェクトについて 7 マニュアルの改訂について 8 内視鏡処置時の抗凝固薬・抗血小板薬剤の休薬マニュアルについて
第17回	3月28日	1 医療関連ニュース（2月17日～3月16日） 2 平成23年度 新採用・転入者対象の医療安全研修について 3 10階フロアのストレッチャー配備について 4 安全管理室新年度体制について 5 インスリンのスライディングスケール基準の運用開始について 6 平成22年度医療安全講演会アンケート結果について 7 事例検討

センター病院

開催日		主な議題
第1回	4月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度安全管理委員会日程について 2 平成22年度主な医療安全業務について 3 第109回リスクマネジャー会議(3/23)報告 4 安全ポッケの配布について 5 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 6 内視鏡下の鉗子について 7 研修医向け医療安全研修会 8 診療報酬加算のための医薬品安全使用に関する業務手順書の改訂について
第2回	5月10日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第110回リスクマネジャー会議(4/19)報告 2 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 3 RST報告 4 医療安全講演会の予定について 5 安全管理対策委員会要綱の一部改訂について 6 内視鏡下の鉗子について 7 研修医向け医療安全研修会
第3回	6月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第111回リスクマネジャー会議(5/17)報告 2 第23回医療事故公表判定委員会概要報告 3 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 4 心肺蘇生部会報告 5 平成22年度医療安全講演会について 6 周術期血栓塞栓症評価用紙の運用 7 手術部オカランス報告 8 最近のインシデント報告から
第4回	7月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第112回リスクマネジャー会議(6/14)報告 2 平成21年度医療安全記者発表事例について 3 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 4 RST報告 5 最近のインシデント事例から
第5回	8月2日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第113回リスクマネジャー会議(7/12)報告 2 心肺蘇生部会報告 3 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 4 RST報告 5 中心静脈穿刺プロジェクト報告 6 周術期血栓塞栓症予防プロジェクトについて 7 病院ホームページ「医療安全管理室」への追加掲載 8 平成21年度医療安全記者発表事例 附属病院事例について 9 ハイリスク手術予定報告書の改訂について 10 医療安全管理指針の改訂について
第6回	9月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1 RST報告 2 ラテックスアレルギー対策 3 単回使用医療機器に関する取扱いについて 4 抗菌薬投与時の重篤なアレルギー反応に対する基本的な考え方について 5 血清カリウムの補正方法ガイドラインの改定について 6 医療安全管理指針の改訂概要について 7 CV講習会について 8 医療安全巡回について 9 院内LANを使った映像による医療安全の啓発予定 10 医療安全講演会について

開催日		主な議題
第7回	10月4日	1 第114回リスクマネジャー会議（9／13）報告 2 心肺蘇生部会報告 3 RST報告 4 第9版医療安全管理指針の配布、説明 5 アレルギー記載に関連する事例報告、監査等 6 PTP包装シートの誤飲防止対策について 7 医療安全巡回について 8 手術室入室時の患者確認について 9 RST診療計画書について
第8回	11月1日	1 第115回リスクマネジャー会議（10／12）報告 2 RST報告 3 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 4 PTP包装シートの誤飲防止対策の広報について 5 転倒転落事例報告と通知 6 単回使用医療機器に関する調査経過報告 7 肺血栓・塞栓予防対策プロジェクト報告 8 清潔管理プロジェクト報告 9 事例報告
第9回	12月9日	1 第116回リスクマネジャー会議（11／8）報告 2 医療監視指摘事項 3 公表判定委員会報告 4 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 5 清潔管理プロジェクト報告 6 麻薬事故関連 7 手術時のガーゼ遺残防止取り組みについて 8 最近の大量輸血に関して 9 内服薬1回量処方の動向、電子カルテ化におけるアレルギー情報について
第10回	1月11日	1 第117回リスクマネジャー会議（12／13）報告 2 RST報告 3 麻薬事故調査委員会報告 4 肺血栓・塞栓症予防対策プロジェクト報告 5 他大学の抗がん剤医療事故報告書、及び当院事例から 6 死亡時画像病理診断報告 7 今後の講演会予定
第11回	2月7日	1 第118回リスクマネジャー会議（1／17）報告 2 麻薬事故関連報告 3 RST報告 4 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 5 肺血栓・塞栓症予防対策プロジェクト報告 6 注射用情報提供用紙の改訂について 7 中心静脈穿刺講習会について 8 NICU人工呼吸器アラーム音量について 9 バルーンジェクターの一時中断に関して 10 事例報告
第12回	3月7日	1 第119回リスクマネジャー会議（2／14）報告 2 麻薬事故関連 3 医薬品・医療機器安全管理責任者連絡調整会報告 4 RST報告 5 心肺蘇生部会報告 6 医療安全管理指針改定について 7 人工呼吸器の更新について 8 ラテックスアレルギー防止対策 9 手術室での取り組み報告 10 小児科事例報告

3 リスクマネジャー会議活動状況

附属病院

開催日		主な議題
第1回	4月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度 リスクマネジャー紹介、会議日程について 2 平成22年度医療安全の取り組みとリスクマネジャーの役割について 3 リスクマネジャーによるワーキングについて 4 新採用・転入者医療安全研修について 5 医療安全講演会について 6 インシデントレポートシステムについて 7 医療安全管理指針 第10版配布について 8 デュロテップMTパッチ〔慢性疼痛用〕の運用方法について
第2回	5月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（4月8日～4月28日） 2 周術期肺血栓栓症対策マニュアルの改訂について 3 新採用・転入者医療安全職員研修（ビデオ上映）追加開催について 4 第1回 医療安全講演会開催について 5 インシデントレポートシステムの更新について 6 事例検討 7 リスクマネジャーによるワーキング活動
第3回	6月7日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（5月6日～5月25日） 2 第1回医療安全講演会参加状況報告とビデオ上映会について 3 異動・転入者対象の医療安全ビデオ上映会について 4 未分画ヘパリン皮下注製剤導入について 5 事例検討 6 リスクマネジャーによるワーキング活動
第4回	7月5日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（5月27日～6月23日） 2 異動・転入者対象安全管理ビデオ研修の参加状況について 3 両病院医療事故一括公表記者発表概要について 4 アレルギー等の患者基本情報入力について 5 手術・麻酔・処置実施時の同意書の改訂について 6 第1回 医療安全講演会ビデオ上映会開催について 7 最近の医療安全に関する情報提供について 8 リスクマネジャーによるワーキング活動
第5回	9月6日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（6月4日～8月25日） 2 病院機能評価Ver6の受審について 3 第1回医療安全講演会実施報告と第2回医療安全講演会開催について 4 リスクマネジャーワーキング活動の中間報告 5 事例報告 6 リスクマネジャーによるワーキング活動
第6回	10月4日	<ol style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（8月26日～9月22日） 2 第5回医療安全講演会参加状況および第9回医療安全講演会開催について 3 第2回医療安全講演会ビデオ上映会日程について 4 新採用・転入者職員医療安全研修（ビデオ）開催について 5 「医薬品の安全使用のための業務手順書」の改訂と実施確認報告書の提出について 6 紙媒体による情報提供の方法について 7 リスクマネジャーによる院内巡視について 8 平成22年度 上半期のインシデント報告状況について 9 医療安全に関する部門内検討・会議報告書提出状況について 10 医療監視実施日程について 11 事例検討 12 リスクマネジャーによるワーキング活動

開催日		主な議題
第7回	11月1日	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（9月27日～10月20日） 2 医療監視実施日程について 3 第3回医療安全講演会実施報告と今後の予定について 4 抗悪性腫瘍薬「メソトレキセート錠2.5mg」オーダー方法の変更について 5 外来化学療法にてパクリタキセル使用患者の車での来院について 6 リスクマネージャーによる院内巡視について 7 病院機能評価自主点検結果と課題について 8 平成22年度医療安全管理指針 ポケット版の主な内容について 9 事例報告 10 リスクマネージャーによるワーキング活動
第8回	12月6日	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（10月29日～11月24日） 2 麻薬の適正管理について 3 公表判定委員会実施報告について 4 第4回医療安全講演会実施報告および、ビデオ上映会日程について 5 薬剤アレルギー情報の電子化への入力について 6 事例報告 7 レジメンオーダー障害発生と対応について 8 医療安全週間について 9 リスクマネージャーワーキング活動の報告 10 リスクマネージャーによるワーキング活動
第9回	1月17日	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（11月25日～1月12日） 2 第5回医療安全講演会実施状況および第6回医療安全講演会開催について 3 平成22年度 今後の研修予定について 4 医療安全に関する部門内検討・会議報告書提出状況について 5 事例報告 6 リスクマネージャーへの安全管理室からのメール配信について 7 医療安全管理指針の改訂について 8 職員の心肺蘇生+AED講習会の受講商況調査について 9 リスクマネージャーによるワーキング活動
第10回	2月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（1月13日～1月25日） 2 第6回医療安全講演会開催について 3 事例報告 4 リスクマネージャーへのお願い 5 リスクマネージャーによるワーキング活動
第11回	3月7日	<ul style="list-style-type: none"> 1 医療関連ニュース（1月27日～2月23日） 2 リスクマネージャーワーキングの総括について 3 指示出しに関する課題について 4 リスクを伴う院内工事予定と対応について 5 内視鏡処置時の抗凝固薬・抗血小板薬剤の休薬マニュアルについて 6 手術時における安全対策と事故予防変更点について 7 救急カートの運用管理について 8 インスリンスライディングスケール基準と運用について 9 第6回医療安全講演会実施状況について 10 リスクマネージャーによるワーキング活動および最終報告書作成について

センター病院

開催日		主な議題
第1回	4月19日	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成22年度リスクマネージャー会議日程について 2 リスクマネージャーの役割と今年度の予定について 3 周術期肺血栓塞栓症マニュアルの改訂概要について 4 第120回安全管理対策委員会（4/12）報告 5 インシデント事例報告、注意喚起 6 グループワークについて
第2回	5月17日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第121回安全管理対策委員会（5/10）報告 2 グループワークのテーマ・進め方について 3 周術期肺血栓塞栓症の運用について 4 医療安全講演会、研修会について 5 グループワーク実施
第3回	6月14日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第122回安全管理委員会（6/7）報告 2 第23回医療事故公表判定委員会資料概要について 3 患者確認の徹底について 4 医療安全講演会テーマ・日程について
第4回	7月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第123回安全管理委員会（7/5）報告 2 医療安全記者発表事例について 3 医療安全講演会開催予定について 4 周術期肺血栓塞栓症評価用紙、関連事例について 5 各グループワークの取組について 6 グループワーク実施
第5回	9月13日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第124・125回安全管理対策委員会（8/2・9/6）報告 2 抗菌薬投与時の重篤なアレルギー反応に対する基本的な考え方について 3 低カリウム血症の補正方法ガイドラインの改定について 4 医療安全管理指針の追補改訂概要について 5 「在宅での使用後の針についてのご案内」について 6 単回使用医療機器に関する取り扱いについて 7 診療記録監査の結果について 8 医療安全巡回について 9 医療安全啓発ビデオ作成について
第6回	10月12日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第126回安全管理対策委員会（10/4）報告 2 第9版医療安全管理指針の主な改訂説明 3 医療安全ビデオの視聴について（3タイトル） 4 「ラテックスアレルギーの基礎知識とアレルギー情報共有」の視聴 5 アレルギー記載に関する説明及び事例紹介 6 医療安全巡回について 7 最近の針刺しインシデント事例と注意喚起
第7回	11月8日	<ol style="list-style-type: none"> 1 第127回安全管理対策委員会（11/1）報告 2 肺血栓・塞栓症予防対策プロジェクト報告 3 清潔管理プロジェクトについて 4 アレルギー情報カルテ記載に関する全数調査について 5 医療安全ビデオの視聴者名簿提出について 6 PTP包装シートの誤飲防止対策について 7 インシデント事例及び改善報告 8 グループワーク実施

開催日		主な議題
第8回	12月13日	1 第128回安全管理対策委員会（12／9）報告 2 医療監視指摘事項について 3 公表判定委員会報告 4 清潔管理プロジェクト報告 5 手術時ガーゼ遺残防止対策について 6 最近の大量輸血事例報告 7 感染性胃腸炎に関する注意喚起 8 内服薬処方1回量記載の動向 9 ベッドのサイドレールに関する事例報告と注意喚起 10 インシデント事例報告 11 グループワーク発表について
第9回	1月17日	1 第129回安全管理対策委員会（1／11）報告 2 周術期肺塞栓症対策マニュアル一部改訂について 3 抗がん剤プロトコルに関する事例報告と注意喚起 4 グループワーク発表（4グループ）
第10回	2月14日	1 院内ルール遵守の再確認 2 バルーンジェクターの一時中断に関して 3 中心静脈穿刺講習会について 4 注射用情報提供用紙について 5 平成23年度リスクマネージャー選出について 6 グループワーク発表（4グループ）
第11回	3月16日 紙上配布	東日本大震災のため資料配布とし、以下重点事項を紙上伝達 1 麻薬事故対策関連について 2 医療安全管理指針の一部改定について 3 人工呼吸器の更新と取扱い説明会について 4 平成23年度リスクマネージャー選出について 5 人工呼吸器等重要機器の緑（無停電）コンセント接続確認について

4 安全管理研修の開催状況

附属病院

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
平成22年度 新採用・転入者 医療安全研修会お よびビデオ上映会	4/2 4/14 4/22 5/11 5/26 10/5 10/13	新採用・ 転入職 員、前期 研修医2 年目、大 学院生	137名 24名 22名 10名 18名 18名 17名	各日 2 時間	テーマ「附属病院の医療安全について」 「病院の理念」 講師：梅村 敏 病院長 「医療安全の原点」 講師：佃 守 (副病院長、教授統括安全管理者) 「医療安全組織的要因」 講師：橋本 勉 (医療安全学教授、安全管理指導者) 「インシデント報告システム、医療安全の実際」 講師：下之菌ルリ子 (医療安全管理室担当課長) 「職員として知っておく感染管理」 講師：満田年宏 (感染制御部長) 「電子カルテについて」 講師：根本明宣 (医療情報部長) 「薬剤に関する安全管理・処方オーダーについて」 講師：西川能治 (医薬品安全管理責任者、副薬剤部長) 「診療録の記載について」 講師：丸山 (診療情報管理士) 「放射線診療における医療安全」 講師：零石一也 (放射線部助教) 「手術・治療・検査における医療安全」 講師：菊地手術部准教授 「研修医の指導に際して」 講師：鈴木 (総務課人事担当)、 青木昭子 (研修センター副センター長)
平成22年度 研修医・新採用看護 師オリエンテーション	4/6	研修医 (1年 目)、新 採用 看護師	107名	2.0 時間	テーマ『附属病院の医療安全について』 附属病院医療安全の基礎講義と「確認」「確認会話」をテーマに したロールプレイ 講師：下之菌ルリ子 (安全管理担当課長)
平成22年度 研修医オリエン テーション	4/6	研修医 (1年次)	40名	1.0 時間	「放射線の安全管理」 講師：零石一也 (放射線部助教)
平成22年度 研修医オリエン テーション	4/5	研修医 (1年次)	40名	6.0 時間	「臨床検査の医療安全」 講師：渡辺 眞一郎 (臨床検査部長) ・荻原 茂 (臨床検査部技 師長) 「肺塞栓とその予防」 講師：石上 友章 (准教授) 「病理オーダーと検体の取扱い方」 講師：稲山 嘉明 (病理部部長) 「内視鏡における医療安全について」 講師：窪田賢輔 (内視鏡センター：准教授) 「点滴・胃管の基本的な手技、演習」 講師：秋山 浩利 (准教授)
平成22年度 新任看護師長感染 管理研修	4/2	新任看護 師長	5名	0.5 時間	「院内感染対策組織体制と感染制御について」 講師：安達理恵 (感染管理認定看護師)
平成22年度 新採用看護師、研 修医感染管理研修	4/3	新採用看 護師、 研修医	74名	1.75 時間	「感染管理認定看護師の役割と実践、感染防御演習」 講師：安達理恵 (感染管理担当係長・感染管理認定看護師)
平成22年度 研修医オリエン テーション	4/8	研修医 (1年次)	40名	4.0 時間	「輸血部と輸血の安全」 講師：上條亜紀 (輸血・細胞治療部部長) 「ME機器実習」 講師：三浦 真紀 (臨床工学担当係長)
平成22年度 研修医オリエン テーション	4/15	研修医 (1年次)	40名	1.0 時間	「くすりと医療安全」 ・くすりのリスクについて ・ハイリスク薬について等 講師：西川能治 (医薬品安全管理責任者・副薬剤部長)
感染リンクナース 研修	5/6 6/3	感染 リンク ナース	各18名	0.5 時間 1.0 時間	「感染管理体制について」 「標準予防策について」 講師：武田理恵 (感染管理担当係長・感染管理認定看護師)

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
管理職研修	5/26	全職種 (管理監督者)	35名	1.0 時間	テーマ「職員のメンタルヘルス対策」 講師：河西千秋（精神科准教授）
研修医のための麻薬取り扱いセミナー	6/10	研修医	20名	1.0 時間	「麻薬の取り扱い」 ・実務に関わる法規 ・麻薬取扱いの運用について ・麻薬関連書類 講師：西川能治（医薬品安全管理責任者・副薬剤部長）
医学部4年生医療安全演習	6/24	医学部 4年生	50名	1.0 時間	「附属病院の医療安全とインシデント事例」 講師：下之菌ルリ子（医療安全管理担当課長）
医学部4年生医療安全演習	7/1	医学部 4年生	50名	1.0 時間	「くすりと医療安全」 ・くすりのリスクについて ・ハイリスク薬について等 講師：西川能治（医薬品安全管理責任者・副薬剤部長）
平成22年度 研修医対象セミナー	7/8	研修医	15名	1.0 時間	「くすりを処方するときの注意点」 ・特殊な用法・用量 ・持参薬について ・抗がん剤血管外漏出、略語、レジメンオーダー ・医薬品副作用被害救済制度 講師：西川能治（医薬品安全管理責任者・副薬剤部長）
平成22年度 研修医セミナー	9/16	研修医	6名	0.4 時間	「研修医のインシデント事例について」 講師：下之菌ルリ子（安全管理担当課長）
第1回 医療安全講演会及びビデオ上映会（共催：感染制御部）	6/1 7/2 7/6 7/13 7/29	全職員	439名 23名 70名 34名 55名	各日 1.5 時間	テーマ「部門における取り組み事例報告」 「院内発生下痢症の対応と手指衛生」 感染制御部 講師：満田年宏（感染制御部部長） 「症例報告：気管切開カニューレの再挿入に難渋した症例」 講師：大塚将秀（集中治療部部長）、堀内長一（耳鼻咽喉科准教授）、水谷健司（手中治療部准教授） 「院内のインシデント報告状況」 講師：小島昌徳（医療安全管理担当係長）
第2回 医療安全講演会およびビデオ上映会	9/14 9/29 10/1 (3回) 10/7 (2回)	全職員	294名 59名 13名 38名 32名 26名 51名	各日 1.0 時間	第2回 医療安全講演会 「医療事故・ヒヤリ・ハットの情報収集による原因分析・再発防止と無過失補償による紛争の解決について」 講師：（財）日本医療機能評価機構 医療事故防止事業部 部長 後 信
第3回 医療安全講演会	10/25	全職員	222名	1.5 時間	「研究と臨床の倫理のはざままで—包括同意のあり方をめぐって—」 講師：京都大学大学院医学研究科社会健康医学 准教授 佐藤 恵子
第4回 医療安全講演会及びビデオ上映会	11/29 12/17 12/20 12/21 12/22 (2回)	全職員	227名 57名 47名 41名 17名 48名	各日 1.0 時間	「医療事故と患者側の意識」 講師：弁護士 森田 明（協同法律事務所）
第5回 医療安全講演会及びビデオ上映会	1/11 1/20 1/21 (2回) 1/25 1/26 1/27	全職員	277名 42名 16名 41名 47名 44名 57名	各日 1.5 時間	「防災訓練の報告」 講師：中村 京太（救急部部長） 「メンタルヘルスケアのシステムと運用」 講師：平安 良雄（精神医学教授）

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
第6回 医療安全講演会及びビデオ上映会	2/8 2/17 (2回) 2/22 3/2 (2回)	全職員	524名 14名 28名 27名 38名 23名	1.5 時間	テーマ「横浜市立大学附属病院の安全管理」 第1ワーキンググループ「症例分析」講師：横山和秀（泌尿器科 准教授）、第2ワーキンググループ「通達の検証」講師：野村英一（眼科 助教）、第3ワーキンググループ「院内巡視」講師：大田貢由（第2外科（旧） 准教授）、第4ワーキンググループ「eラーニングの導入」講師：久保まゆみ（9-1・4師長）、第5ワーキンググループ「病院機能評価受審に向けて」講師：堀内長一（耳鼻咽喉科 准教授）、「ドクターコールプロジェクト」講師：内山宗人（救急医学 助教）
感染講演会	10/26 11/8 (2回) 11/11 11/12 11/15 (2回)	全職員	251名 46名 37名 49名 59名 51名 50名	各日 1.0 時間	「当院の抗生剤使用状況」 講師：若杉 正（感染制御部 薬剤部係長） 「新興多剤耐性菌と感染対策～アシネトバクター・パウマニなど～」 講師：満田 年宏（感染制御部部長）
感染対策講習会	2/22 2/28 (2回) 3/1 3/4 (2回)	全職員	168名 43名 41名 49名 61名 47名	各日 0.75 時間	「VRE（バンコマイシン耐性腸球菌）対策について」 講師：満田 年宏（感染制御部部長）
中心静脈カテーテル挿入講習会	4/28 5/21 11/26	研修医・ 医師	24名 29名 6名	各日 3.0 時間	講師：菊地龍明（手術部准教授）、秋山浩利（乳腺腫瘍科准教授） インストラクター：富田直人（リウマチ・呼吸器・感染症科准教授）、熊本、入江、諏訪（麻酔科）
人工呼吸器研修 レベルⅠ	5/7 5/28 9/3 11/26	看護師・ 研修医	10名 23名 28名 21名	各日 2.0 時間	テーマ「人工呼吸器研修 レベルⅠ」 人工呼吸器教育・研修プロジェクト主催 講師：大塚将秀（集中治療部部長：医療機器安全管理責任者）、並木陽明、水越加奈子、伊藤藤洋（臨床工学技士）
人工呼吸器研修 レベルⅡ	7/2 10/29 12/3	看護師・ 研修医	16名 18名 27名	各日 2.0 時間	テーマ「人工呼吸器研修 レベルⅡ」 人工呼吸器教育・研修プロジェクト主催 講師：大塚将秀（集中治療部部長：医療機器安全管理責任者）、並木陽明、水越加奈子、伊藤藤洋（臨床工学技士）
麻酔器操作研修	9/29	医師・ 研修医・ 看護師	9名	0.5 時間	内容：放射線で使用する麻酔器の操作研修及び安全な取扱い 講師：石山美穂（麻酔科助教）
心肺蘇生+AED研修	9/28 10/14 11/15 12/17 1/28 2/21	全職員	6名 6名 10名 10名 5名 16名	各日 1.75 時間	内容：人工呼吸、心臓マッサージ、自動体外式除細動器の使用について 講師：石山美穂（救急部助教） 院内インストラクター：医師、看護師
MR磁場体験研修	12/1 2/2	全職員	8名 7名	各日 1 時間	内容：「MR磁場の医療安全」講義と演習 講師：放射線部技師
インシデントレポートシステム 説明会	5/25 5/26 5/27 5/28	全職員	5名 17名 19名 16名	各日 0.25 時間	内容：インシデントシステムの更新に伴う操作研修および、新システムの変更点について 講師：小島昌徳（医療安全管理担当係長）
インスリンスライディングスケール 基準指示の解説	3/30	全職員	47名	0.5 時間	テーマ「インスリンスライディングスケール基準指示の解説」 講師：木村 真理（内分泌・糖尿病内科 准教授）
看護部教育研修 新採用者オリエンテーション	4/1.2.5	看護師	71名	1.5 時間	テーマ「病院概要・看護部概要」 内容：組織と安全管理について 講師：梅村病院長、折津礼子看護部長

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
看護部教育研修 ステップⅠ	4/7.8.9	看護師	計78名	各 7.5 時間	テーマ「看護技術演習」 内容：「医療機器（輸液ポンプ・シリンジポンプ・ネブライザー・アクアサーム・カンガルーポンプ）」「輸液（輸液管理・ミキシング）」「バイタルサイン」「移送」「体交」「輸血」「麻薬」「スキンケア」「排泄の援助」「寝衣交換」「酸素療法」「吸引」「静脈採血」 講師：臨床工学技士、輸血部医師、理学療法士、薬剤師、看護部教育委員会委員他
看護教育研修 ステップⅡ Part 1	5/21 5/24	看護師	計69名	各2時間	テーマ「リフレッシュ&コミュニケーション」 ねらい：相互交流によりリフレッシュできる。仲間作りができる。 講師：福田紀子（リエゾン精神看護専門看護師）
看護教育研修 ステップⅡ Part2	6/23 6/30	看護師	計65名	各 7.5時間	テーマ「リフレッシュ&コミュニケーション」 ねらい：ストレスマネジメントを学ぶ。相互支援の場となる。 講師：福田紀子（リエゾン精神看護専門看護師）
看護教育研修 ステップⅢ	8/4 8/6	看護師	69名	各 2 時間	テーマ「フィジカルアセスメント&急変時の対応」 内容：急変時の看護の基本を学ぶ 講師：集中ケア認定看護師（細路史子、飯田八重子、稲葉桜、後藤祐子）
看護教育研修 ステップⅣ	11/26 11/29	看護師	計66名	各 7.5時間	テーマ「リスクアセスメント」 ねらい：看護場面におけるリスクについて学び安全な看護ができる。 内容：リスクを予知し気づく事の大切さを学び、安全な看護ができるためのスキルを身につける。 事故のインシデント場面を振り返り、課題を明らかにすることができる。 講師：下之菌ルリ子（医療安全管理担当課長）、加藤弘美（7-4病棟師長）
急変時の看護	9/22 2/4	看護師	26名 10名	1.5 時間	テーマ「急変時の看護」 内容：急変時における看護師の役割がわかり対応できるような技術と対応演習 講師：集中ケア認定看護師（細路史子、飯田八重子、稲葉桜、後藤祐子）
看護教育研修 看護倫理Ⅱ	9/29	看護師	12名	3 時間	テーマ「臨床倫理」 講師：福田 紀子（リエゾン精神看護専門看護師）
看護教育研修 看護倫理Ⅲ	11/19	看護師	13名	3時間	テーマ「看護倫理Ⅲ」：講義と演習 講師： 若狭紅子（医学部看護学科精神看護学教授） 服部紀子（医学部看護学科老年看護学准教授） 永田真弓（医学部看護学科小児看護学准教授） 塚越みどり（医学部看護学科基礎看護学准教授）
新任師長研修 （センター病院合 同研修）	7/23 9/24 12/24	新任看護 師長	5名	各4時間	テーマ「看護管理を実践するための基礎を学ぶ」 講師： 野水 圭子（センター病院 教育担当副部長） 鈴木博美（センター病院）
看護師長研修	2/3・4 2/9・10	看護師長	24名	計8時間	テーマ「ストレスマネジメント」 講師：田邊 千枝（ハーティスト）
がん看護Ⅱ （がん化学療法看 護） [地域公開研修]	12/20	希望者 がん看護 リンク ナース	15名	4時間	ねらい：がん化学療法看護の基本的知識と安全な抗がん剤の投与の管理方法を理解する 講師：宮城悦子（外来化学療法センター長） 彌富恵（薬剤師 化学療法担当） 加藤亮子（がん化学療法認定看護師）
がん看護 （放射線療法看 護） [地域公開研修]	1/17	希望者 がん看護 リンク ナース	21名	2時間	ねらい：がんの放射線療法に関する動向、治療と看護の実際を理解できる 講師：大村素子（放射線科医師）、竹田弘美（6-2看護師）

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
看護教育研修 スキンケア基礎Ⅰ [地域公開研修]	6/29	希望者 スキンケア アリンク ナース	26名 (院外5 名含)	3時間	ねらい：スキンケアの基礎的知識。技術を学ぶことができる。講義および演習 講師：後藤真由美（皮膚・排泄ケア認定看護師）、山田千寿（皮膚・排泄ケア認定看護師）
看護教育研修 スキンケア基礎Ⅱ [地域公開研修]	11/17	希望者 スキンケア アリンク ナース CDP3段階 以上の者	34名 (院外 12名 含)	3.5時間	ねらい：スキンケアの基礎知識・技術とスキントラブルのケースアプローチの実際を学ぶ 講師：後藤真由美（皮膚・排泄ケア認定看護師）、山田千寿（皮膚・排泄ケア認定看護師）
呼吸管理Ⅰ [地域公開研修]	11/11	呼吸管理 リンク ナースも しくはと もに呼吸 管理ケア の推進を 担う看護 師	21名 (院外 2名 含)	3.5時間	ねらい：安全を視点に、気管カニューレ挿入中の呼吸管理について基本的知識・技術を学び、部署の看護実践に活かす。 講師：細路史子・後藤祐子・稲葉桜・飯田八重子（集中ケア認定看護師）

センター病院

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
新任医師 オリエンテーション	4/1	新任医師	118名	2時間	講義：知っておきたい病院の基本、急患対応、院内の情報伝達、診療録・医療情報、安全管理、感染対策、看護、手術部について等 講師：平安病院長、金子副病院長、寺崎安全管理指導者、長谷川総合診療科部長、古川医療情報部長、乾呼吸器病センター担当部長、小出麻酔科部長、斎藤化学療法・緩和ケア部長、橋本副薬剤部長、濱崎副看護部長、高橋医事管理担当係長、長嶺施設担当係長、高山物品管理担当係長、岸田庶務担当係長、中神医事管理担当
新採用看護職員研修 オリエンテーション	4/5, 6, 7	新採用看護職員	88名	全日	講義：病院組織、看護部組織・方針、看護体制、教育プログラム、業務管理、防災・災害管理、安全管理、感染管理、情報管理、組織における役割・心構えと行動について 講師：佐藤看護部長、野水副看護部長、谷川副看護部長、田中看護師長、鈴木美智子看護師長、吉留看護師長、十文字看護師長、三浦看護師長
臨床研修医 オリエンテーション	4/5, 6, 7, 8, 9	1年次臨床研修医	35名	全日	講義：知っておきたい病院の基本、医療倫理、診療録、安全管理、感染対策、災害対策、人工呼吸器の取扱い 実習：気道管理実習、看護実習、実技実習（縫合、採血、ラリングルマスク等）、BLS等 講師：平安病院長、金子副病院長、寺崎安全管理指導者、長谷川総合診療科部長、古川医療情報部長、鈴木高度救命救急センター長、平和血液浄化療法部長、斎藤化学療法・緩和ケア部長、山口集中治療部長、小菅救命救急センター医師、菅原臨床工学担当係長、米沢臨床検査係長、十文字感染担当師長、近藤人事調整担当係長ほか
新採用職員研修 オリエンテーション	4/5, 6, 7, 8	新採用診療放射線技師、アルバイト職員	4名	3.5日	講義：放射線部のクレドについて、感染対策について、病院・放射線部門の概要について、放射線部の安全管理マニュアルについて、患者接遇体験、オーダーリング研修、放射線障害防止法に基づく教育訓練 講師：村山技師長、菊池課長補佐、菊地係長、石川係長、宮内技師、橋技師、加藤技師、金井技師
新採用者 看護技術研修 感染防止の技術	4/7	新採用看護職員	88名	3時間	院内感染・職業感染と予防対策について、正しい手洗い・防護具の正しい着脱・安全な針の取扱いについてを講義・演習を通して学ぶ 講師：感染制御担当看護師長 十文字美代子 感染看護認定看護師 河原春代師長
《新任者用》放射線業務（診療）従事者講習会	4/8	新採用診療放射線技師	6名	3時間	1 放射線の人体への影響 講師：石川栄二（放射線部担当係長） 2 放射線機器の安全取扱い 講師：石川栄二（放射線部担当係長） 3 放射線障害防止に関する法令 講師：菊地達也（放射線部担当係長、放射線取扱主任者） 4 放射線障害予防規程 講師：菊地達也（放射線部担当係長、放射線取扱主任者）
新採用者 看護技術研修 安全確認の基本	4/8, 9	新採用看護職員	88名	各1.5時間	ネームバンドの使用基準、当院で行われている患者誤認防止の方法・実施についてDVD視聴やロールプレイングで学ぶ 講師：教育担当 教育委員
新採用者 看護技術研修 与薬と注射の技術	4/8, 9	新採用看護職員	88名	各2.5時間	誤薬防止の手順に沿った与薬方法について、誤認防止の看護技術手順に基づく与薬（内服・輸液）の方法を講義・演習を通して学ぶ 講師：教育委員 教育担当

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
新採用者 看護技術研修 ME機器 (輸液ポンプ)	4/8, 9	新採用看護職員	88名	各2.5時間	輸液・シリンジポンプの原理、使用方法、注意点・観察事項など講義を通して学び、看護技術手順に基づく基本的な技術を演習を通して学ぶ 講師：臨床工学担当係長 菅原浩二
新採用者 看護技術研修 清潔操作の基本	4/8, 9	新採用看護職員	88名	各1時間	創傷処置における清潔操作の基本について講義・デモンストレーション・演習を通して学ぶ 講師：教育委員 教育担当
新採用者 看護技術研修 創傷ケアと褥瘡予防	4/8, 9	新採用看護職員	88名	各2.5時間	皮膚の解剖生理の再確認、スキントラブルの誘因、予防方法、治癒過程などについて講義と褥瘡予防の為の効果的な体位変換、ポジショニング・背抜き演習。 講師：ET皮膚・排泄ケア認定看護師 井口美奈枝
新採用者 看護技術研修 安全な移乗介助・移送・抑制方法	4/8, 9	新採用看護職員	88名	各3.5時間	安全、安楽を配慮した体位変換、ボディ・メカニクスを考慮した移送について、抑制の目的や実際を講義・デモンストレーション・演習にて学ぶ 講師：教育委員 教育担当
新採用者 看護技術研修 酸素と吸引	4/11	新採用看護職員	88名	3.5時間	酸素療法と吸引・体位ドレナージ及びパルスオキシメータによる測定について、看護技術手順に基づく基本的な知識・技術を習得し、正確な看護実践ができるよう講義・デモンストレーション・演習を通して学ぶ 講師：教育委員 教育担当
新採用者 看護技術研修 症状・生体機能管理	4/11	新採用看護職員	88名	3.5時間	呼吸・循環におけるフィジカルアセスメントの必要性を講義を通して理解し、心電図モニター・12誘導心電図の装着・管理方法や観察したことを記録に記載することができるようデモンストレーション・演習を通して学ぶ 講師：集中ケア認定看護師
新採用者 看護技術研修 正しい検体採取と採血	4/12	新採用看護職員	88名	1.5時間	静脈血採血と検体の取り扱いについて、看護技術手順に基づく基本的な知識・技術を習得し、正確な看護実践ができるよう講義と演習を通して学ぶ 講師：教育委員 教育担当
新採用者 看護技術研修 インスリンと抗菌薬 血糖測定	4/12	新採用看護職員	88名	2時間	インスリン・抗菌薬の種類・用法・効果・副作用、血糖測定の方法を講義・演習を通して学ぶ 講師：教育委員 教育担当
新人看護師研修 コミュニケーション研修	4/14	新採用看護職員	88名	全日	プロフェッショナルに必要な周囲の人達との関わり方、コミュニケーションエラーを防ぐ受け取り方、聴き方、表現の仕方を講義・グループワークを通して学ぶ 外部講師：株式会社ハーティスト
薬剤師医療安全 基礎研修	4/15	薬剤師	40名	各0.25時間	薬剤部のインシデント事例を通じて、医療安全の基礎を学ぶ 「昨年度のインシデント事例から」 講師：安全管理担当課長 荒井稔
経皮的心肺補助システム 取り扱い研修	4/15 4/22 7/20	救命救急センター 医師、研修医、看護師	35名	各1.5時間	経皮的心肺補助システムに関する、有効性・安全性、使用方法、日常点検、不具合時の対応等について講義・実機を用いたシミュレーション 講師：臨床工学担当係長 菅原浩二
新採用者 看護技術研修 救命救急処置技術 (BLSとAED)	5/13, 19, 25	新採用看護職員	88名 (1回29 ~30名 ずつ)	1.5時間	BLSとAED使用方法の講義と実技演習 (事前にe-Learning受講) 講師：救命救急センター医師・集中ケア認定看護師・救急看護認定看護師

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
中心静脈穿刺講習会	5/18, 19, 20, 21	医師 研修医	129名	各1.5時間	登録医制度、穿刺方法、合併症等についての講義、および実技演習 講師：中心静脈穿刺プロジェクト 麻酔科部長 小出康弘、高度救命救急センター 田原 良雄 他
心肺蘇生講習会 (医療職向け)	5/20 7/15 9/16	医師 研修医 看護師 他医療職	97名	各1.5時間	人形を用い、心肺蘇生（心臓マッサージ、人工呼吸、AED）の実際を学ぶ 講師：高度救命救急センター 小菅医師ほか
地域連携研修会 感染症フォーラム	5/26	全職員	55名 (院内50名、 院外5名)	1.25時間	「Data-based Infection Control-これからの感染制御のあり方を考える」 講師：愛知医科大学大学院医学研究科 感染制御学教授 三嶋 廣繁
移乗の介助について	5/26 6/2 6/9 6/16 6/23	全職員 研修医	65名	各1時間	患者さんをベッド等から車椅子に移乗させる実技演習 講師：理学療法士 折津英幸、重田真輝、下田隼人、藤浦達、森川由基
基礎ACLS	6/3 8/5	院内看護 職員	8名	2.0時間	心肺蘇生が必要な患者に対し、正しい知識に基づいた安全かつ適切な心肺蘇生を実施するためのシミュレーション学習 講師：救急看護認定看護師及びインストラクター
《第1回目》 放射線業務（診療）従事者講習会	6/4	放射線業務（診療）従事職員（ガラスバッジ装着職員）	74名	2時間	1. 放射線診療と放射線防護 講師：竹林茂生（放射線部医師） 2. 放射線を安全に利用するために 講師：小坂橋美保（診療放射線技師） 3. 放射線機器の安全取扱い 講師：千葉敏春（診療放射線技師） 4. 放射線障害防止に関する法令・規程 講師：菊地達也（放射線取扱主任者）
MR I 磁場体験研修	6/7, 10, 15	研修医	33名	0.5時間	1. 「MR I 磁場の危険性」スライド講義（15分） 講師：放射線部 MR担当技師 戸谷典子 2. 「MR I 磁場体験－ハサミが飛ぶ－」金属持込実習（15分） 講師：放射線部 MR担当技師 早川堅一
(公開講座) 看護職員研修 急性期呼吸管理 シリーズ	6/8 7/6 8/3 9/7	横浜市内 看護職	104名 (院内66名、 院外38名)	各1.5時間	I 人工呼吸に伴う人体の生理的变化を理解する II 人工気道・人工呼吸器装着中の観察に必要とされる知識を習得する III 人工気道・人工呼吸器装着中に実施される看護技術や、緊急時の対応について理解する IV 人工気道・人工呼吸器装着中のモニタリングを理解する
第1回 医療安全講演会	6/14	全職員	84名	1時間	患者さんを講師にお招きして、患者さんの立場からみた医療安全について学ぶ
(公開講座) 看護職員研修 スキンケアシリーズ	6/24 7/29 8/27	横浜市内 看護職	111名 (院内47名、 院外64名)	各3.5時間	患者に安全・安楽かつ根拠に基づいたストーマケア（PEGを含む）を提供するための基本的知識・技術を得る、褥そう予防やケアについての知識・技術を理解する 講師：ET皮膚・排泄ケア認定看護師 井口美奈枝 11-2病棟看護師 宮田晶代
看護助手研修	7/1	看護助手	33名	45分	「感染対策の基礎・器材の洗浄・消毒」 感染制御部担当・感染管理認定看護師：十文字美代子

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
新採用者研修 安全管理研修	7/2, 9	新採用看護職員	86名 (37名、49名に分けて)	各3.5時間	医療安全についての取り組み、ヒューマンエラーについての他、インシデント事例をもとに要因や対策を考え、新人が起こしやすいインシデントについての認識を持てるよう講義、グループワーク 講師；安全管理担当師長 三浦百合子
薬剤師医療安全サマーマナーセミナー	I 7/2 II 8/5, 27 III 8/12 9/10	薬剤師	I 17名 II 25名 III 24名	各1時間	I インシデント事例を分析する II K Y T 演習 III 体験気づき型研修から学ぶ医療安全 講師：安全管理担当課長 荒井稔、薬剤部 縄田修一、薬剤部 戸塚美郷
第1回 医薬品安全管理講習会	7/21	全職員	28名	1時間	「注射剤の配合変化」「医薬品の相互作用」 講師：薬剤部 浦本恭子、宇野洋司
地域連携研修会 感染症フォーラム	7/28	全職員	71名 (院内56名、院外15名)	1.35時間	「感染症の基礎と抗菌薬の使い方」 講師：感染症コンサルタント サクラ精機株式会社 学術顧問 青木 眞
看護助手研修	9/2	看護助手	32名	45分	「安全管理研修」患者確認、ヒューマンエラー、インシデント報告、酸素ボンベを使用した患者移送等について 講師：安全管理担当師長 三浦百合子
第2回 医療安全講演会	9/6	全職員	61名	1.5時間	「医療メディエーション対話による関係調整」 講師：早稲田大学大学院法務研究科教授 和田仁孝
(公開講座) 看護職員研修 救急看護講習会 急変の看護シリーズ	9/21, 30	横浜市内看護職	45名 (院内20、院外25)	各1.5時間	I 急変における看護師の役割について理解する II 呼吸障害時の根拠に基づいたアセスメントを学ぶ 講師：集中ケア認定看護師・救急看護認定看護師
地域連携研修会 感染症フォーラム	9/22	全職員	46名 (院内37名、院外9名)	1.35時間	「耐性菌対策2010」 講師：兵庫医科大学感染制御学 主任教授 竹末 芳生
(公開講座) 看護職員研修 救急看護講習会 急変の看護シリーズ	10/4, 13, 25 11/5, 22, 29	横浜市内看護職	延べ222名 (院内102名、院外120名)	各1.5時間 (11/29のみ7時間)	・循環障害時の循環管理、フィジカルアセスメントや看護を理解する。 ・代謝系・脳神経系に起因する意識障害時の看護を理解する。 ・急変時の倫理的配慮、家族対応について学ぶ。 ・危機理論、危機状態にある患者・家族の心理の理解と関わりについて学ぶ。 ・知識と技術を統合し、急変時の対応が迅速かつ的確に実施することができるよう、事例を基にした演習。 講師：集中ケア認定看護師・救急看護認定看護師 小児看護専門看護師・リエゾン精神専門看護師
持続的血液濾過透析装置取扱い研修	10/5	看護師	21名	1.25時間	持続的血液濾過透析装置取扱いについて 講師：MEセンター 菅原浩二臨床工学担当係長

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
中心静脈穿刺講習会	10/6	医師 研修医	22名	各1.5時間	登録医制度、穿刺方法、合併症等についての講義、および実技演習 講師：中心静脈穿刺プロジェクト 高度救命救急センター 田原良雄 他
基礎ACLS	10/7 12/2 2/3	院内看護 職員	延べ 24名	2時間	心肺蘇生が必要な患者に対する、正しい知識に基づいた安全かつ適切な心肺蘇生法の流れの理解・対応と、除細動・気管挿管の準備・介助。
看護助手研修	10/7, 28, 11/4	看護助手	33名	1.25時間	役割を担う上で必要な知識と技術として「安全な移送（車いす）」「超音波ネブライザーの消毒交換方法」について、目的・方法・留意点について学ぶ。 「KYT」を通して病室に潜む危険の理解、「個人情報保護法」について取り扱い時の留意点、漏えい時の対応について学び、急性期医療における病院補助者の役割を理解する。 講師：教育担当看護師長・感染制御担当師長・教育担当看護師
人工呼吸器取扱い 研修	10/9, 11/30	看護師	延べ 27名	各1.5時間	人工呼吸器の取扱い、心肺補助システム取扱い、医療の安全モニターアラームの考え方 講師：MEセンター 菅原浩二 臨床工学担当係長、山下武史 臨床工学担当 他
輸液ポンプ・シリンジポンプ取扱い 研修	10/14	看護師	11名	1.25時間	輸液ポンプ・シリンジポンプ取扱いについて 講師：MEセンター 菅原浩二臨床工学担当係長
平成22年度《第1回》放射線関連装置の医療機器安全取扱研修	10/21	診療放射線技師 放射線部 医師 外来C看護師	41名	2時間	1. CT装置の安全な取り扱い方① 具野陽貴（診療放射線技師） 2. CT装置の安全な取り扱い方② 米田靖（診療放射線技師） 3. リニアック装置の安全な取り扱い方 宮内敦由（診療放射線技師） 4. 内照射装置（RALS）の安全な取り扱い方 橘猛（診療放射線技師） 5. 関係法令と機器管理のpoints 菊地達也（放射線取扱主任者）
感染対策部署研修	10/27, 3/2	医師、看護師、薬剤師、栄養士等 コメディカル	延べ 50名	各0.5時間	「BSIサーベイランスについて」 「BSIサーベイランスの中間報告とケア改善提案」 講師：感染制御部担当十文字（感染管理認定看護師）
感染対策部署研修	10/29, 12/1	小児科医師、看護師	延べ 医師12名、 看護師22名	0.5～1時間	「標準予防策・手指衛生」講義・演習 「接触感染対策、防護具の正しい着脱」講義・演習 講師：十文字美代子（感染管理認定看護師）
感染対策リンク ナース会 学習 会	11/4, 12/1, 2/2	感染対策 リンク ナース	24名	各 45分	「カテーテル関連血流感染」講義 講師：河原春代（感染管理認定看護師） 「耐性菌報道を受けて～リンクナースへの役割期待」 講師：十文字美代子（感染管理認定看護師） 「検体検査、取り扱い」講師：臨床検査部ICT杉山嘉文 「抗菌薬の基礎的知識」講師：薬剤部ICT宗佐博子
新採用者研修 安全管理研修	11/5, 12	新採用看護 職員	82名	各 3時間	医療安全についての講義、ヒューマンエラーについてのDVD視聴や今後も前向きに取り組むことができるように、インシデントを起こしたときの気持ちや感情、周囲の対応について振り返った。 講師：寺崎仁安全管理指導者、教育委員会

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
放射線曝露から身を守ろう	11/5, 12	新採用看護職員	82名	35分	放射線防護の3原則、RI検査時の防護措置、MR検査時の注意点などについて講義で学習。 講師：放射線技師
人工心肺の基礎	11/11, 18	手術室看護師、臨床工学技士	13名	1.25時間	人工心肺の取扱いについて 講師：MEセンター 菅原浩二臨床工学担当係長
MR I 装置磁場体験	11/17, 26	看護師	23名	各0.5時間	講義：MR I 装置の磁場とその危険性、及び磁場体験 講師：石川栄二、戸谷典子（放射線技師）
心肺蘇生講習会(医療職向け)	11/18 1/20	医師 研修医 看護師 他医療職	73名	各1.5時間	人形を用い、心肺蘇生（心臓マッサージ、人工呼吸、AED）の実際を学ぶ。 講師：高度救命救急センター 小菅宇之医師 ほか
地域連携研修会・感染症フォーラム	11/24	医師、コメディカル	47名 (院内37名、 院外10名)	1.5時間	「院内感染対策の総論（MRSAも含めて）」 講師：県西部浜松医療センター 副院長 兼 感染症科 科長 矢野 邦夫 先生
(公開講座) 看護職員研修 急性期呼吸管理 シリーズ	11/29	横浜市内看護職	51名 (院内28名、 院外23名)	各1.5時間	人工呼吸器装着中の患者管理に必要な血液ガス分析データと胸部レントゲン写真の読み方を習得する。 講師：山口修 集中治療部部長
第7回南区薬剤師会・市大センター病院地域医療連携研修会	11/30	薬剤師 (地域保険薬局・ 当院)	31名	2時間	「危険予知トレーニングを日常業務に活かそう」 講師：薬剤部 川上 佳那子、戸塚 美郷、 安全管理担当課長 荒井 稔
平成22年度《第2回目》放射線業務（診療）従事者講習会	12/1	放射線業務（診療）従事職員（ガラスバッジ装着職員）	47名	2時間	1. 放射線の安全取扱い① 黒田周児（診療放射線技師） 2. 放射線の安全取扱い② 小坂橋美保（診療放射線技師） 3. 放射線の人体への影響 松井とにか（診療放射科医師） 4. 放射線障害防止に関する法令・規程 宮内敦由（放射線取扱主任者）
除細動器取扱い研修	12/2, 1/9, 1/27	看護師	延べ29名	各0.5時間	除細動器取扱いについて 講師：MEセンター 鈴木・嶋倉（臨床工学技士）他
(公開講座) 看護職員研修 小児医療	12/6, H23 1/12	横浜市内看護職	延べ22名 (院内18名、 院外4名)	各1.5時間	家族看護の考え方とケアの実際について、子どもと家族に対する医療の質を向上させるための知識・技術を磨く。 講師：長田暁子小児看護専門看護師
N95マスクフィットテスト	1/6, 7, 18, 20	医師、看護師、コメディカル	延べ229名	各1時間～2時間	「N95マスクの正しい装着方法、フィットテスト」実技演習 実技指導：十文字・河原（感染管理認定看護師）、業者

研修区分	開催日	対象	参加数	時間	内容
CT装置更新に伴う医療機器導入時安全取扱研修	1/11	診療放射線技師 放射線部 医師, 看護師	40名	1.5時間	1. CTシステム：導入のコンセプト 大島弘（診療放射線技師） 2. CT装置：機能の概要説明（東芝メディカル） 3. CT装置：安全にご使用頂くために（東芝メディカル） 4. インジェクター：安心・安全にご使用していただくために（根本杏林堂） 5. 画像処理装置：機能の概要説明（富士フイルムメディカル）
安全対策委員会学習会	1/13	看護師	24名	2時間	「インシデント事例分析について」（講義・演習） 講師：藤谷裕美（看護師長）、三浦百合子（安全管理担当師長）
わが国の救急蘇生ガイドライン2010の概要と変更点	1/25 2/2	全職員	123名 院内105 院外18	各1時間	心肺蘇生法におけるBLSについて、2005年のガイドラインからの変更点と、今回のガイドラインの強調点について概説 講師：高度救命救急センター部長 森村尚登
地域連携研修会・感染症フォーラム	1月26日	医師、コメディカル	48名 (院内44名、 院外4名)	1.5時間	「多剤耐性菌の治療とその対策」 講師：埼玉医科大学 感染症科・感染制御科 教授 前崎 繁文 先生
経皮的心肺補助システム取り扱い研修	2/8, 9, 10, 23, 24	医師、研修医、看護師	延べ54名	各1時間	経皮的心肺補助システムに関する、有効性・安全性、使用方法、日常点検、不具合時の対応等について講義・実機を用いたシミュレーション 講師：臨床工学担当係長 菅原浩二
新規導入超音波ネブライザ取り扱い研修	2/8, 9, 18, 22, 3/3, 9	看護師	延べ96名	各1時間	新規導入超音波ネブライザ取り扱いについて 講師：MEセンター 島峰（臨床工学技士）他
感染対策部署研修	2/18, 24	看護師	23名	1時間	「カテーテル関連血流感染」講義 講師：河原春代（感染管理認定看護師）
第2回医薬品安全管理講習会	2/23	全職員	21名	1時間	(1) 抗がん剤の基本的な取り扱い方法を知る。 (2) 医薬品の保管・管理上の注意点を知る。 講師：薬剤部 小林 由美恵、戸塚 美郷
平成22年度《第2回》放射線関連装置の医療機器安全取扱研修	3/2	診療放射線技師 放射線部 医師 看護師	38名	2時間	1. CT装置の安全な取り扱い方① 真野陽貴（診療放射線技師） 2. CT装置の安全な取り扱い方② 米田靖（診療放射線技師） 3. リニアック装置の安全な取り扱い方 宮内敦由（診療放射線技師） 4. 内照射装置（RALS）の安全な取り扱い方 橘猛（診療放射線技師） 5. 関係法令（MRI装置の使用開始に向けて） 柳田隆（診療放射線技師）
新規導入人工呼吸器取り扱い研修	3/2, 4, 7, 9, 11, 14, 16, 18, 23, 25, 28, 29, 30	医師、研修医、看護師等	延べ172名	各1時間	新規導入人工呼吸器の取り扱いについて 講師：MEセンター、当該メーカー

入院患者さんアンケート

このアンケートは、皆さんが入院療養中にお感じになったことについてうかがい、病院の安全管理対策や医療サービスの質を向上させていくことを目的としています。皆様から頂戴したご意見を参考に、より信頼される病院づくりに向け、職員一同、励んで参りますので、率直なご意見をいただければと思います。ご協力をお願いします。

アンケートにつきましては、退院の際または退院後外来にご来院されました折に、2階総合案内カウンター（土・日曜、祝日は1階防災センター）に設置してあります回答箱に投函くださるよう、お願いいたします。

横浜市立大学附属病院長

1 貴方様が入院期間中に受けた、病状や治療方針の説明は分かり易かったですか。

（該当する口にし点をつけてください）

- 良く理解できた 一応理解できた どちらでもない
 余り理解できなかった 全く理解できなかった
 その他 _____

2 入院中の治療、検査、処置など診療全般について、医療安全管理上問題があったと思われたこと、その他に気づかれたことや不満に思われたことがありますか。

（該当する口にし点をつけてください）

- ある ない

3 「ある」とお答えいただいた方は「いつ」「どのようなことか」などを具体的にお書き願います。

4 医師，看護師，薬剤師，技師などの対応について，どうお感じになりましたか。
(該当する□にし点をつけてください)

- 非常に良い まあ良い 普通 やや悪い
 非常に悪い 分からない

5 病室，トイレ，デイルーム，食事など院内の療養環境について，あなたの印象に最も近いものはどれですか。 (該当する□にし点をつけてください)

- 満足 やや満足 やや不満 不満 何とも言えない

6 職員の対応や療養環境，その他，お気づきの点があれば自由にご記入下さい。

7 おかかりの診療科と病棟を記入して下さい。

① 入院した病棟 _____ 病棟

② 診 療 科 (該当する□にし点をつけてください)

- リウマチ・血液・感染症内科 呼吸器内科 循環器内科
 腎臓・高血圧症内科 消化器内科 内分泌・糖尿病内科 神経内科
 脳卒中科 神経科 小児科 一般外科 心臓血管外科
 心臓・小児循環器 消化器・肝移植外科 臨床腫瘍・乳腺外科
 整形外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科
 放射線科 歯科 口腔外科 麻酔科 脳外科
 リハビリテーション科 形成外科 小児精神神経科

8 差し支えなければご記入下さい。

ア 性別： 男性・女性 (該当する方に○をつけてください)

イ 年齢 _____ 歳

ウ ご住所 _____

お名前 _____

ご記入の日 平成____年____月____日 (ご協力ありがとうございました)

横浜市立大学附属2病院での、過去5年間の公表事例・インシデント件数等

(1) 即時公表した事例

年度	記者発表日	事 例	病 院
平20	H20. 9. 19	胃瘻チューブの不十分な挿入による腹膜炎の発症	センター病院

※平成16年度～平成19年度、平成21年度での即時公表事例はありません。

(2) 上記以外で個別公表した事例

年度	記者発表日	事 例	病 院
平18	H19. 3. 28	昭和54年当時の手術の際のガーゼ遺残	附属病院

(3) 一括公表した件数

年 度	附属病院	センター病院	合計
平成18年度分	2 件	3 件	5 件
平成19年度分	2 件	1 件	3 件
平成20年度分	1 件	1 件	2 件
平成21年度分	4 件	3 件	7 件
平成22年度分	0 件	1 件	1 件

(4) インシデント件数

年 度	附属病院	センター病院
平成18年度	2,570 件	5,873 件
平成19年度	3,264 件	5,760 件
平成20年度	3,466 件	6,149 件
平成21年度	3,624 件	6,867 件
平成22年度	4,340 件	7,077 件

■横浜市立大学附属2病院の正式名称

附属病院 : 横浜市立大学附属病院

センター病院 : 横浜市立大学附属市民総合医療センター